

文部科学省「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン」採択事業
新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン

平成30年度 内部評価報告書

九州大学・福岡大学・久留米大学・佐賀大学・長崎大学
熊本大学・大分大学・宮崎大学・鹿児島大学・琉球大学



新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン

平成 30 年度 内部評価報告書

目次

タイトル	ページ
はじめに	2
自己評価一覧	3
九州がんプロ全体の内部評価	4
各大学の内部評価	10
九州大学	10
福岡大学	18
久留米大学	22
佐賀大学	24
長崎大学	28
熊本大学	32
大分大学	38
宮崎大学	44
鹿児島大学	46
琉球大学	50
数値実績一覧	52
セミナー・シンポジウム等	52
満足度調査／指導技術向上等のためのFD／ホームページ・SNS更新	55
教育プログラム・コースの受入実績	56
受験・合格・資格取得者	58

はじめに

『新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン』は、九州内の 10 大学（九州大学・福岡大学・久留米大学・佐賀大学・長崎大学・熊本大学・大分大学・宮崎大学・鹿児島大学・琉球大学）が参画するプロジェクトであり、文部科学省が行う『多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン』事業の採択を受けて活動しています。

本報告書は、平成 30 年度（平成 30（2018）年 4 月 1 日～平成 31（2019）年 3 月 31 日（見込み））の実績を取りまとめ、各大学・プラン全体での自己評価（内部評価）を行ったものです。

なお、本報告書をもとに外部評価委員の先生方による第三者評価をいただくことで、次年度以降、客観的視点も踏まえた事業改善を行い、新ニーズに対応できる人材を養成して参ります。

※内部評価は、平成 29 年度から毎年継続して実施しています。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」

平成30年度内部評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている /
c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

○「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」全体としての自己評価

九州がんプロ	b:目標を達成できている
--------	--------------

○各大学の自己評価

九州大学	b:目標を達成できている
福岡大学	c:あと少しで目標を達成できる
久留米大学	c:あと少しで目標を達成できる
佐賀大学	b:目標を達成できている
長崎大学	b:目標を達成できている
熊本大学	(大学院コース) b:目標を達成できている (インテンシブコース) d:目標を達成できていない
大分大学	c:あと少しで目標を達成できる
宮崎大学	c:あと少しで目標を達成できる
鹿児島大学	b:目標を達成できている
琉球大学	c:あと少しで目標を達成できる

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

作成担当コーディネーター	九州大学 馬場 英司（幹事コーディネーター・北部エリア部会長）
	長崎大学 芦澤 和人（西部エリア部会長）
	鹿児島大学 上野 真一（南部エリア部会長）
事務担当者	九州大学医系学部等事務部 学務課 田中 紀代美

1. 概要

補助事業の目的・必要性 総論 ※交付申請時の内容を転記（編集不可）

本プランはこれまでの10年に及ぶ九州内の医療系大学との継続的ながん教育連携を基盤とし、九州大学の九州連携臨床腫瘍学講座が10の大学院・関連医療機関等と密接に連携し九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。また長崎大学の臨床腫瘍学分野、鹿児島大学の臨床腫瘍学講座が九州内連携の要となり、特にライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。当該講座には専門の教員を配置し、各大学病院内の小児がん医療部門、希少がん部門、ゲノム医療関連部門等との強力な連携に基づく実地教育を行う。対面講義・研修等に加え遠隔通信等も利用し広域にわたる大学連携を機能的に実現させ、新ニーズに対応した多職種連携教育の構築・情報発信を行う。またゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

目的・達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

今年度から本格的に各大学がんプロコースが始動した。10大学において、計34コース（大学院24コース、インテ
ンシブ10コース）が設置。日々教育が行われており、現在、合計367名の学生が在籍している。
教員による対面指導はもちろんのこと、九州大学に設置の「eラーニング支援室」を中心として『全国eラーニングクラ
ウド』へ提供する講義の収録・編集・公開も進んでいる（45講義収録完了（ゲノム7、小児・AYA・希少がん28、ライフ
ステージ10）。がんプロ学生はeラーニングシステムを活用し、九州がんプロ内だけでなく他拠点の講義も視聴すること
で、がんゲノム医療をはじめとした最新情報を得ながら、がん専門医療人となるべく研鑽を積んでいる。

がんゲノム医療に関しては、まだまだ単一大学内のみでの情報収集・教育は困難であるが、今年度は各大学が他県・他拠点等から講師を招き、最新情報の収集・共有に努めた。また、既存の「テレビ会議システム」等も活用し複数大学が共同で講習会等を積極的に開催したことで、補完し合うことができた（写真（左）は7月開催分。鹿児島大学が講師を務めた）。

例年実施している「九州がんプロ全体研修会」も、**沖縄での初開催**を実現した（写真右）。琉球大学が主体となった運営のもと「沖縄の医療事情」に関する講話や、「アンコンシャス・バイアスへの気づきは成長の第一歩」と題した**男女共同参画**に関する講義等、新たなテーマを取り上げることができ、参加者アンケートでも96%から次回も参加したいとの高評価を得た。

北部エリア（九州・福岡・久留米・大分大学）では、合同による**市民公開講座「がん医療×アートな暮らし」**を初めて企画。大分県立美術館で開催し、約100名の参加を得た（写真下3点）。**医療情報の提供に留まらず医療と他分野を融合させた内容**としたことで、更に広い市民層へがん医療、がんプロについて発信することができた。また、福岡大学では、**生活習慣病と関連させた「がん治療セミナー」**の開催により、多くの開業医・在宅医の参加を得ることができた。

今後、これまで取り上げていなかった新しい視点のセミナー等を発案・実施することで、更に広くがん医療について発信するとともに、これらにがんプロ学生を積極的に巻き込み、がん専門医療人の教育・養成の強化にも繋げる。



写真左から：講師の駒形克己氏制作ポスター／講演風景／美術館で当日同時開催したがん患者・家族等の作品展示

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

始動したがんプロコースにおいて、**今年度は142名の修了者（大学院23名、インテンシブ119名）を輩出した**。各コース学生のうち**26名が、各種専門医**（がん治療認定医、小児血液がん専門医、小児科専門医、血液専門医、医学物理士、外科専門医、内科認定医、消化器外科専門医、消化器病専門医）**に合格**といった実績も徐々に始動しており、今後、がん専門医療人として九州における即戦力となることが期待できる。

また、今年度は**「在学生へのアンケート」も実施。ウェブアンケートを採用**し、在学生の負担軽減とともに回収率を高めることができた。**回答者の約75%から「全体的な満足度」の項目で4もしくは5の高評価**を得た。

がんプロ卒業生にも継続して指導を実施しており、その結果、がん薬物療法専門医に合格した旨の報告も届いてきている。久留米大学では、**在学生と修了生による「久留米ネットワーク」が運営**され、事例検討会・セミナー等の場で最新の知識について意見交換が行われ、相互に学び合えるサイクルが築かれている点も評価できる。

九州がんプロホームページでは**「修了者の声」と題したコーナー**（右図）を作成。各大学の**がんプロコース修了者（第2期含む）計25名の記事を新たに掲載**することで、在学生・市民に対して広くがんプロの情報発信を行った。今後、本記事を活用してがんプロコース履修者のリクルートに努めるとともに、記事掲載した**修了者と在学生の実際の交流**を設ける等して、より具体的なネットワークの構築を行う。



長崎大学では**「在宅・地域医療実習」を継続して実施。今年度は7名が参加し**、地域医療を理解しライフステージに応じたがん対策を推進できる人材となるべく地域の実情を学んだ。

また、緩和医療をより地域に普及させることを目的とし、新たに**「在宅緩和医療に関する講演会」を開催**した。

今後、このような各大学の特長的な事例（グッドプラクティス）を拠点内で共有する機会（報告会等）を設ける。

海外先進事例の収集に関しては、10月に**「韓国アサン医療センター・がんセンター訪問研修」**を実施。がんプロの教員2名・学生5名が渡航し、**がんゲノム医療の実施体制・成果に関して韓国側とディスカッション**を行うとともに、今回新しい試みとして、**ソウル市内・近郊医療機関のがん専門医も交えての「Korea-Japan Joint Symposium」**（右写真）を同時開催した。今後も研修形式をupdateしながら更に意義深い交流企画を目指す。ほか、九州大学では、大学病院国際医療部海外交流センターとの連携体制を活用した留学生受入による交流も実施した。



九州がんプロでは、国内外の様々な医療人との交流機会も活用しながら、幅広い視野と豊富な経験を持つ、今後の日本がん医療を率いるプロフェッショナルを引き続き育成する。

2. 各事業の取り組み状況

（1）交付申請書に記載した内容への対応

No	具体的な事業内容 ※交付申請時の内容を転記（編集不可）	実施計画 ※同左（編集不可）
①	新しい教育コース（大学院コース、インテンシブコース）の準備、開始、運営	4月 新しい教育コースを開始、運営。
②	本プランを有効かつ効率的に運営するための事務機関として、「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン事務局」を設置し、プロジェクトの事務管理を行う。	4月～3月 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン事務局」によるプロジェクトの事務管理。
③	e-learningシステムのコンテンツ作成、維持管理を行う機関として、「eラーニング支援室」を設立する。	4月～3月 eラーニングコンテンツの作成・公開。
④	プランにおける取組、成果を開示し広く国民に理解をいただくため、また、継続的な学生確保のための「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プランホームページ」を開設する。	4月～3月 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プランホームページ」の管理運営。
⑤	事業運営の意思統一、円滑な運営のため、「事業運営推進協議会」を設置し、開催する。	6月、11月 「事業運営推進協議会」を開催。
⑥	連携大学間のテレビ会議システムによる「ゲノム医療講習会」を実施する。	2月 連携大学間のテレビ会議システムによる「ゲノム医療講習会」を実施。
⑦	各大学においてシンポジウム、セミナー、講習会等を実施する。	4月～3月 各大学においてシンポジウム、セミナー、講習会、市民公開講座等を実施。1月 男女共同参画に係る講演会を開催。
⑧	連携大学共同による研修会を実施する。	3月 九州がんプロ全体研修会を開催。
⑨	国内外医療機関等を調査し、連携体制構築のための協定締結に向けて協議する。	6月～7月 海外医療機関との訪問研修実施。国内他拠点とのリトリート実施。
⑩	連携大学間のテレビ会議システムによる「小児緩和医療講習会」を実施する。	10月 連携大学間のテレビ会議システムによる「小児緩和医療講習会」を実施。

No	実績 ※1～2行程度で簡潔に記述	成果（学生教育の観点での成果について記載）※同左
①	大学院24コース、インテンシブ10コースにて学生を受入。	367名が在籍。修了者142名を輩出。6コースにおいて当初の受入目標を上回った。
②	九州大学の事務局スタッフが各大学の情報収集および進捗管理を行った。	事務局スタッフが各大学と密接に連携し、各種研修・講習会等に多くのがんプロ学生を動員することができた。
③	eラーニング支援室専任スタッフおよび各大学担当教職員のもと、eクラウド用の講義収録等を実施した。	合計45の講義を収録完了した。現在随時、編集・公開作業を進めている。
④	九州大学の事務局スタッフが各大学の情報収集・発信を行った。	計82回の記事掲載・更新を実施。SNS（Facebook, Twitter）も活用し169回の投稿発信を行った。
⑤	今年度は合計5回の会議（予定含む）を実施し、事業運営について協議した。	テレビ会議・メール会議も活用し、多大学による運営を効率的に進めることができた。
⑥	各大学にて講習会を展開。一部はテレビ会議システムにて同時中継を実施した。	7月の「がんゲノム講習会」は鹿児島大学を講師とし、九州がんプロ5大学36名が参加した。
⑦	全大学合計96回のシンポジウム・セミナー等を実施した。	合計約5,000名の参加を得た。がんプロ学生等に対し幅広く最新のがん医療等の知識・情報を提供することができた。
⑧	1月に沖縄において「九州がんプロ全体研修会」を実施した。	教員15名・学生12名の参加を得た。症例検討等を通して多職種での情報共有・交流を図った。
⑨	10月に韓国への渡航研修を実施。2月に筑波大学拠点とのリトリート、北信がんプロ拠点との合同シンポジウムを実施。	韓国研修は教員2名・学生5名が参加。他拠点との行事では合計約100名のがんプロ教員・学生が参加した。
⑩	各大学において小児緩和医療に関する講習会等を実施した。	各大学病院との連携により教育を継続。拠点内（大学間）での共有・波及を次年度具体的に検討する。

（2）各事業の実績・成果（詳細）※各大学の取り組みも踏まえ、特色ある内容等に触れながら記述すること。

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）※別表「数値実績一覧」も参照して記述
<p>10大学・計34コース（大学院24コース、インテンシブ10コース）において教育を実施。今年度は合計367名の学生が在籍し、142名の修了者を輩出した。九州がんプロ全体として当初の受入目標を達成。特に、九州大学「先端医用量子線技術科学コース」、熊本大学「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」、福岡大学「多職種連携がん専門医療人育成コース」（インテンシブ）では、当初目標を大きく上回る学生受入を達成した。</p> <p>各コース学生のうち26名が、各種専門医に合格。がんプロ卒業生にも継続して指導を実施しており、その結果、がん薬物療法専門医に合格した旨の報告も得ている。</p> <p>一部、目標に届かなかったコースもあることから、単一大学内での検討に留まらず、九州がんプロ全体として解決策を検討・対応していく。</p>
②シンポジウム、セミナー、講習会等 ※別表「数値実績一覧」も参照して記述
<p>今年度は、合計約100回のシンポジウム・セミナー等を開催。約5,000名もの参加が得られ、当初目標を大きく上回ることができた。各大学において他施設との連携・共同によるセミナー等も活発化しており、地域の医療従事者をはじめとした学外者も多く参加している。今後もがんプロの輪を更に各地域の中へ広げるべく、積極的な開催を進める。</p> <p>また、前述のとおり、新たな視点での企画実施により、幅広い層へがん医療・がんプロを周知することができた。次年度も継続して同様の企画を実施し、がん医療の裾野を拓いていくとともに、こういった事業にがんプロ学生も巻き込み、教育にも展開・波及させていく。</p>
③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）※別表「数値実績一覧」も参照して記述
<p>九州大学に置く「九州がんプロ事務局」が各大学の情報を収集し、ホームページで発信。今年度は合計82回の記事掲載・更新を行った。また、ホームページと連動したSNS（Facebook, Twitter）も活用。合計169回の投稿を行い、広く社会へ広報した。他拠点ががんプロの一部もSNSを活用しており、拠点相互での情報発信も積極的に実施している。</p>
④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）
<p>各大学において、がん診療連携拠点病院・小児がん拠点病院との連携により、カンファレンス、研修会・セミナー、市民公開講座等を積極的に実施している。これらに、がんプロ教員・学生をはじめ各医療機関の医師・医療スタッフが参加し、知識向上・意見交換を行っている。</p>
⑤離島・僻地対策 ※一部地域のみでの取り組みではなく、九州全体での取り組みが分かるように記述すること。
<p>長崎大学において「在宅・地域医療実習」を行い、7名の学生を計12の医療機関等に派遣して、地域医療を理解する専門人材の育成を行った。また、「九州がんプロ全体研修会」を沖縄で開催し沖縄固有の医療事情等について九州内での情報共有を行った。次年度以降、更に拠点全体に波及できるような事業を計画する。</p>
⑥自己評価体制（拠点間リトリート含む）
<p>他がんプロ拠点との「拠点間リトリート」として、東北大学・九州大学腫瘍内科合同の研究会を昨年度に引き続き実施した。また、北信がんプロ拠点との交流を新たに実施。合同でシンポジウムを行い互いの事業内容・状況を共有した。次年度は事業3年目に当たるため、国の中間評価に備えて具体的な相互評価を実施することで検討する。</p>

3. 拠点（九州がんプロ）内の連携体制

①各エリアでの活動

	活動内容 ※5行程度で記述
北部エリア	○構成：九州大学（エリア拠点）、福岡大学、久留米大学、大分大学 ・前述のとおり、エリア合同の市民公開講座「がん医療×アートな暮らし」を大分県立美術館で開催。医療と他分野を融合させた企画が参加者から高評価を得た。今後も同様の企画を他県等でも実施することで検討。 ・大分大学と九州大学では、今年度も合同カンファレンスを実施し互いの最新情報を共有した。
西部エリア	○構成：長崎大学（エリア拠点）、熊本大学、佐賀大学 ・テレビ会議システムを活用して、長崎大学主催の講演会「九州大学病院における希少がんの診療体制」、「遺伝子パネル検査に基づくがんプレジジョンメディシンの現状と課題」を他大学でも視聴参加した。
南部エリア	○構成：鹿児島大学（エリア拠点）、宮崎大学、琉球大学 ・インテンシブコースを、鹿児島および宮崎大学の合同で今年度も実施した。 ・琉球大学が主体となって運営した「九州がんプロ全体研修会」に他大学も参加し、この期間にエリア内の情報共有等も実施した。

②その他：上記エリアに限らず、大学間の連携や役割分担について特記すべき取り組みがあれば記載（5行程度）。

特になし

4. プラン採択時における「がんプロフェッショナル養成推進委員会」の評価への対応

（1）推進委員会所見（平成29年5月23日発表）への対応状況

要望事項	所見の内容 ※工程表の内容を転記（編集不可）	本プランの対応方針 ※同左
①	本事業は各大学の連携の下で実施するものであることを踏まえ、一部の大学が主体となって実施するのではなく、事業責任者のリーダーシップの下、事業における各大学の役割や責任体制を明確化し、連携大学すべてが一体となって事業を推進すること。また、事業期間終了後も各大学において、長期的な展望に基づく具体的な事業継続の方針・考え方について検討し、自立化した事業体制を構築すること。	地域により3つのエリアに分け、それぞれのエリアに拠点校を置いて、各拠点校がそれぞれのエリアのコーディネーターの教員と連携して事業を推進し、主幹校である九州大学が全体を総括して事業を推進する体制を整える。各大学の補助期間終了後は自大学において予算を確保し本プランで新設したコースを維持し事業を継続する予定としている。また補助期間中より「事業運営推進協議会」（仮称）において、事業継続のための具体的な検討を行う。
②	厳格な事業の進捗管理の下、自己点検・評価や患者等を含む外部評価を実施し、事業の不断の見直しを行いつつ、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた人材を養成する体系的な教育プログラムを展開すること。その際、履修する学生や医療従事者等のキャリアパス形成に資するものとする。また、客観的なアウトプットやアウトカムを年度ごとに明確にすること。	工程表に基づき、毎年、事業の自己点検・進捗管理を行うとともに、3年目に中間外部評価シンポジウムを開催して、中間評価に基づき、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた人材を養成する体系的な教育プログラムを展開する。
③	成果や効果は可能な限り可視化した上で、地域や社会に対して分かりやすく情報発信すること。また、他大学の参考となるよう、特色ある先進的な取組やモデルとなる取組について、実現するためのノウハウ、留意点等も含めて積極的に情報発信するなど、成果等の普及・展開に努めること。	九州大学内に本プラン事務局を設置し、本プランに係るHPを公開して情報発信するとともに、本プランが主催・共催する講演会、市民公開講座などで事業成果を広く共有し社会に発信する。また、シンポジウムを開催して、取組みや成果を情報発信する。

推進委員会所見に対する今年度の対応状況 ※3～5行程度で記述	
①	エリア拠点である九州・長崎・鹿児島大学のもと、エリア単位での合同市民公開講座、テレビ会議システムを利用した講習会を共同で実施する等、活動が活発化している。今後、各エリアでの活動を更に活発化させるとともに、全大学が協働し、エリアの枠を越えて拠点全体に波及させていく。
②	昨年度実施した内部・外部評価をもとに全体および各大学の計画を見直しながら活動した。次年度は対面での評価を予定していることから、評価委員と更に具体的なディスカッションができるような内容を検討する。
③	九州がんプロホームページを継続運用し、積極的な情報発信を実施。これにより全大学で実施したセミナー等において計5,000名の参加者を得ることができた。事業報告は可能な限り速やかにホームページに掲載しており、今後も他拠点の事業を日頃から調査し、良い取組は随時取り入れていく。

(2) 本プラン（九州がんプロ）に対する推進委員会からのコメントへの対応状況

	推進委員会のコメント（充実を要する点） ※工程表の内容を転記（編集不可）	本プランの対応方針 ※同左
①	連携大学との教育・研究の情報共有方法を明確にする必要がある。	「事業運営推進協議会（仮称）」を1年目に設置し、2年目以降は原則として年2回開催して連携大学間で教育・研究の情報共有を図る。また、TVカンファレンスや合同講習会を利用して限られた教育リソースを効率的に共有すると共に、毎年、連携大学共同の研修会を実施する。更に、本プランコース履修生の修了後、所属先でのがん診療、研究における活動を調査し、その情報を連携大学間で共有することで事業成果を広く活用する。
②	拠点間リトリートの開催は有用と思われるが、トピックによっては医療事情や社会事情が異なるので、地域性を考慮し、相互にメリットが得られるよう工夫が必要である。	それぞれの拠点が実施している特色のある活動に関する情報を、相互に提供しあえるように拠点間リトリートの内容を検討する。例えばゲノム医療に関しては、すでに国内最大規模で稼働している東北メガバンクの情報を東北の拠点より提供頂き、がん教育に関する国際連携拠点については韓国ソウルのアサン医療センターにて継続的に実習を行っている九州の拠点が情報提供することを計画している。
③	事業の実施体制において、実施に関わる教員数が著しく少ない。	連携大学の医学研究科等の長が各大学における事業責任者となり、九州大学大学院医学研究院院長がこれを統括する。各大学には実務担当のコーディネーター教員を1名置き、九州大学の幹事コーディネーター教員がこれを統括する。事業の実施にあたっては、各大学において、実務担当のコーディネーターに協力して、がん関連の他の教員等もコース運営、事業実施に参画する体制をとる。
④	ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーストップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。	ライフステージ毎に異なる、多様な患者・家族支援を提供できるよう複数の医療機関、および医療機関以外の他団体の専門職が参加するカンファレンスを開催し、がんプロ学生、教員も含めて先駆的な対応策の実施を検討する。

推進委員会からのコメントに対する、今年度の対応状況 ※3～5行程度で記述	
①	今年度は「事業運営推進協議会」を5回実施（予定含む）。テレビ会議システム等を利用し、遠隔地間でもコミュニケーションが取り易い体制を整備している。また、1月に拠点全体の「九州がんプロ全体研修会」を沖縄で実施。顔の見える形での交流・情報共有も行っている。
②	今年度は、東北がんプロに加えて北信がんプロとの交流も実施。互いの事業内容・状況を共有することで、自拠点のみでは賄えない教育を提供することができている。次年度は事業3年目に当たることから、中間評価に備えて具体的な相互評価を実施することで検討している。
③	各大学コーディネーターの強力なイニシアチブのもと、自大学・他機関の教員を多数教育に参画させ、各種講義等を展開している。今後、九州がんプロ内で各大学の教育に参画している教員の情報を共有し、大学間の教育差を埋めるような取組を検討する。
④	自大学のみでは提供が困難な内容は、eラーニング等も活用しながら積極的に教育を実施した。また、緩和医療の更なる普及を目指し「在宅緩和医療に関する講演会」の新規開催（長崎大学）、大学院コースへの新規科目「小児・AYA世代を含むライフステージに応じたがん医療」の設置（九州大学）を行った。市民公開講座等では、新規テーマと連動させた企画も実施した。今後も、焦点化・先駆的な取組の実施に努める。

5. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない
b:目標を達成できている
理由・分析等
<ul style="list-style-type: none">・九州がんプロ全体としては、教育コースの当初受入目標は達成でき、修了者・資格合格者も輩出が進んでいる。しかしながら、一部、目標に届かなかったコースもあることから、単一大学内での検討に留まらず、九州がんプロ全体として解決策を検討・対応していく。・各大学、各エリアにおいて特長的な活動実績が出始めているが、他大学への波及までは至っていない点が課題。次年度以降、グッドプラクティスを拠点内へ速やかに共有・浸透させ、拠点全体としての更なる活性化を目指す。
自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等
<ul style="list-style-type: none">・引き続き積極的な学生受入を行う。地域差等により学生確保に課題を持つ大学については、他大学からも積極的にアドバイスを協力を行う等して、拠点としての目標達成を目指す。・がんプロ内だけでなく、各大学附属病院の機能を活かし、他診療科とも更に積極的に具体的な事業・教育を行うことで、連携体制の可視化を行う。また、がんプロ教員・学生が他部署・他機関との連携に積極的に関与していくことで、大学院入学前の研修医や、ひいては学部学生に対してもがん医療への興味を高めていく。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	九州大学
コーディネーター	大学院医学研究院 九州連携臨床腫瘍学講座 教授 馬場 英司
事務担当者	医系学部等学務課 課長補佐 田中 紀代美

1. 概要

達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

- ・本年度は「ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース」9名、「希少がん・放射線治療学コース」1名、「小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース」1名、「先端医用量子線技術科学コース」13名、「がん専門細胞検査士コース修士課程」1名の**合計25名の新規受入があった**（「がん研究薬剤師コース博士課程」の今年度受入はなし）。これにより、現時点での本学における**第3期がんプロコースへの在籍者は合計75名**となった（うち第2期からの移行33名。また、これとは別に、第2期コースの在籍者32名に対しても継続して教育を提供している）。
- ・がんプロ履修生に対して新ニーズ「がんゲノム医療」「小児・AYA・希少がん」「ライフステージに応じたがん医療」を主題とするがん教育カリキュラムを作成、講義を行い、**大部分となる26回分の講義については、eラーニング用として収録も同時に実施**した。収録した資料を基に、九州がんプロ養成プラン参加大学と協力し、eラーニング教材を作製した。逐次全国eラーニングクラウドへのアップロードを行っている。
- ・がんプロ履修生が複数のがん種の臨床研修を臓器横断的に行えるよう診療科間のコーディネートをを行った。本年度は、**がんプロ卒業生の1名が日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医に合格**した（これまでにがんプロ卒業生16名が、がん薬物療法専門医を取得）。加えて「小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース」の学生が小児科専門医、日本血液学会血液専門医、小児血液がん専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医に合格、「先端医用量子線技術科学コース」の学生3名が医学物理士に合格する等の実績も出始めている。
- ・がんプロ履修生と教員に加え、九州大学病院やがん診療連携拠点病院からの多職種の出席者を加えた「**がんゲノム医療講習会**」を、拠点内他大学との共同開催、また、九州大学病院ARO次世代医療センターとの共催で開催した（**本年度計4回、合計約500名参加**）。この講習会は、本学のがんプロを担当する九州連携臨床腫瘍学講座の教員、がんプロ卒業生が主体となって企画・準備、そして講演を行った。
- ・九州大学病院がんセンターとの共催にて、がんセミナーを開催した（本年度計3回、合計約200名参加）。九州大学病院やがん診療連携拠点病院からの多職種の出席者に対し、様々ながん種の基本、問題点に関する講演と質疑応答を行った。
- ・九州がんプロ全体研修会へ九州大学から学生5名、教員4名が参加（沖縄開催、九州がんプロからは5大学が参加。合計27名）し、職種・学生・教員の枠を超えて交流、症例検討、講演、ディスカッションを行った。
- ・大分大学との合同カンファレンスを行い、計41名が参加。各大学病院の症例検討、がんゲノム医療に関連する講演、さらに様々なライフステージにおけるがん遺伝子検査の取扱いについての議論を行った。
- ・**他のがんプロ拠点との「拠点間リトリート**」として、東北大学・九州大学腫瘍内科合同研究会を行い、九州大学からは13名のがんプロ教員と履修生が参加、研究内容の発表、ディスカッションを行った。また、北信がんプロ拠点とも合同シンポジウムを開催。当拠点から教員・学生各1名が金沢大学に赴き、発表を行った。
- ・小児緩和ケアチームの定期的な活動（ラウンド週1回、勉強会2ヶ月に1回、カンファレンス2ヶ月に1回）へ、がんプロ教員・履修生が毎回4名程度積極的に参加している。
- ・「九州放射線治療セミナー」を開催し、九州のがん診療連携拠点病院を含む様々な施設の放射線治療医、レジデント、研修医、放射線治療に携わっている看護師ら約80名が参加。情報交換、ディスカッションを行った。



がんプロ講義の様子



がんゲノム医療講習会（第2回）



九州放射線治療セミナー

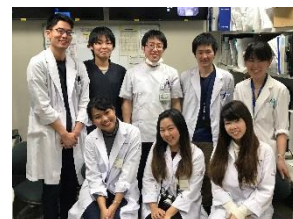
実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

- ・本プラン履修生を対象とし「九州がんプロ全体研修会」、「がんゲノム講習会」、「韓国アサン医療センター・がんセンター訪問研修」、「海外からの留学生との交流」を実施した。また、小児科領域を学ぶ履修生については「小児緩和ケアチームによる定期的な活動」（ラウンド、勉強会、カンファレンス）への参加、レポート提出を求めた。これらにより新ニーズに対応するための知識と、実臨床における理解が深まった。
- ・「九州がんプロ全体研修会」では本プランが目指す「ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う」ため、多職種の履修生・教員が集い、症例検討を通じてより良いがん医療への理解を深めた。また、男女共同参画についての講演も開催し、ディスカッションを行うことでがんプロ履修生・教員の意識改革の助けとなった。
- ・「がんゲノム医療講習会」を本年度4回開催した。うち1回は**テレビ会議システムを活用し、5大学（九州、福岡、長崎、宮崎、鹿児島大学）において同時開催**。鹿児島大学に講師を担当いただき「遺伝子パネル検査の基礎知識：NGS解析からエキスパートパネルまで」、「がんゲノム医療の臨床：当院での実際」について学習した。各大学でのがんゲノム医療の実装に向けての様々な取組についても情報交換ができ、がんゲノム医療の将来の担い手としてのがんプロ履修生の教育に役立った。
- ・「韓国アサン医療センター・がんセンター訪問研修」では本プランの達成目標の一つである「ゲノム医療に対する海外の先進事例を積極的に収集する」ため、本学から4名のがんプロ履修生、2名のがんプロ教員が参加した。韓国におけるがんゲノム関連の研究者との相互交流を通して、アサン医療センター・がんセンターと本邦の状況の違いについて情報を交換し、有意義な議論を行うことができた。また、がんプロ教員1名・学生2名が台湾の台北榮民病院の訪問研修・学会に参加。がんプロ活動の最新情報を発表。
- ・九州大学病院国際医療部海外交流センターとの密接な連携体制を活用し、今年度は4名の海外留学生（タイ）を受け入れた。共同の臨床実習を通じて、各国における腫瘍学分野についての情報や意見の交換を通して、知識の更なる習得・定着向上に活かすことができた。
- ・「小児緩和ケア勉強会・講演会」は5回開催し、履修生・教員は「小児緩和ケアにおける看護の役割」や「小児緩和ケアのこれから」についての講演を聴講し、小児緩和ケアについての理解を深めた。



テレビ会議による講習会



留学生・がんプロ学生交流

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

- ・前述のとおり、本年度は5コースで計25名の受入を行った。
- ・本学ががんプロ学生1名に対して「日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医症例実績報告書」の作成支援を実施し、専門医取得を支援した。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

- ・「がんゲノム医療講習会」を本年度4回開催。九州大学病院やがん診療連携拠点病院等も含めて合計約500名が出席した。がんゲノム医療の基本、次世代シーケンサーの仕組みや結果の解釈、本学で用いられる各種のパネル検査の特徴、二次的所見への対応（遺伝カウンセリング体制）などに関する講義を行い、出席者と活発な質疑応答が行われた。
- ・市民向けに「**患者さんと家族のためのセミナー**」（写真）を、九州大学病院内で合計9回開催し約50名が参加。毎回、がんに関する情報を分かりやすく提供するとともに、九州がんプロの取り組みについても定期的に情報発信することができた。
- ・北部エリア（九州、福岡、久留米、大分大学）と連携し、大分市内にて市民公開講座を行った。従来から行っているがん医療に関する情報を分かりやすく伝える講演に加え、治療を受けるがん患者や家族がより豊かな日常生活を送るにはという新たな視点で、造本作家・デザイナーであり、また自身ががんサバイバーである駒形克己氏を招き、芸術とがん医療の融合についての講演をいただいた。この講演は約100名の参加者からの強い反響があり、芸術もがん患者を支える重要な分野であること、**がん医療の裾野を広げてゆくことが求められている**ということが認識された。
- ・「先端医用量子線技術科学コース」では本年度中に3回の講演会を実施。京都大学、大阪大学、電力中央研究所、奈良先端科学技術大学院大学、放射線医学総合研究所から講師を招き最新の研究等について学ぶ機会を得た。



セミナーの様子

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

- ・本学に置く「九州がんプロ事務局」にて、本学をはじめ拠点内大学の情報を収集し、積極的にホームページにより発信した（合計82回の更新）。また、ホームページと連携したSNS（Facebook, Twitter）も併せて活用し合計169回の投稿発信を行った。**SNSでは他拠点がんプロとの連携（相互の情報発信）も積極的に行っているところである。**
- ・本学のがんプロを担当する九州連携臨床腫瘍学講座ホームページにおいても学内の各種情報を発信した（合計21回の更新）。

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

- ・「九州がんプロ全体研修会」をはじめとした対面交流に加え、eラーニング支援・テレビ会議システム等のツールも効果的に利用することで、九州全域における教員・学生のネットワークの拡大・深化を進めるとともに、九州全域一律の教育の提供を実施している。
- ・当院がんセンターと共催して定期的に開催している「九大病院がんセミナー」では、本学のがんプロ履修生・教員だけでなくがん診療連携拠点病院、小児がん拠点病院からも多くの医師、医療スタッフが参加して、積極的な情報、意見の交換を行った（本年度計3回、合計約500名参加）。
- ・本プラン事業である「大分大学・九州大学合同カンファレンス」では、両大学がんプロ履修生・教員に加え、大分県、福岡県等のがん診療拠点病院の医師・医療スタッフが参加し、主にごん腫瘍内科領域のがん医療、教育、研究について活発な議論を行った（本年度合計41名参加）。
- ・小児がん拠点病院である九州大学病院において「**小児緩和ケアチーム勉強会・特別講演**」（右図）を定期的に開催。がんプロ教員・履修生を含む病院内の医療スタッフに加え、がん診療連携拠点病院や地域医療機関の医師・医療スタッフが参加し、小児を対象とした緩和ケアの知識向上を図るとともに、施設毎に異なる状況等を踏まえた意見交換を行った。本年度は小児の在宅ターミナルケアや医療施設での緩和ケアを中心としたテーマを取り扱った（本年度計6回、合計約250名参加）。



⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。

- ・本年度は、小児・AYA～高齢者の各世代に対するがん治療の特徴を把握した上で治療計画を立て、かつ、個々のライフステージにおける身体的・心理的・社会的な面を含む包括的な問題への対策・支援について考察できる医療人の育成を目標として、本プランの大学院コースに「**小児・AYA世代を含むライフステージに応じたがん医療**」という科目を新たに設置し、聴講形式の講義に加えて小児緩和ケアカンファレンスへの参加や緩和ケア専門施設訪問の実習も行った。
- ・「九州がんプロ全体研修会」では教員・本プラン大学院生が高齢者とAYA世代のがん症例について活発な意見交換を行った。
- ・北部エリア合同で企画した市民公開講座では、造本作家でデザイナー、がんサバイバーである駒形克己氏（右写真）にご講演いただいた。



3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

b: 目標を達成できている

理由・分析等

- ・本年度、当初の計画通り新しい教育コースを開講した。6つの教育コースにおいて、**履修者の受入目標22名に対し受入実績25名と、全体の目標を達成**した。
- ・がんゲノム講習会、東北大学拠点や北信がんプロ拠点との「拠点間リトリート」、市民公開講座など本学にて計画された教育プログラムをすべて実施。九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人の養成に大きく寄与した。
- ・九州拠点内の大学とともに、2日間にわたる合同研修会・男女共同参画に関する講演（沖縄）、海外の複数医療機関への訪問研修（韓国・台湾）、大学間合同カンファレンス、北部エリア合同の市民公開講座を計画どおり開催し、がん専門医療人の養成に大きく寄与した。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

- ・6つの教育コースにおいて受入目標の人数を今後も達成できるよう、学内・大学病院内の各部局に働きかけて履修者数の増加を図る。本がんプロ教育コース以外の大学院コース（臨床医学研究コース）の臨床研究専門教育科目において、がんプロ履修生対象の「**がんゲノム治療**」科目を選択可能とすることで、特にがんゲノム医療の情報を幅広く発信し、がん医療への注目を高める。
- ・都道府県がん拠点病院、小児がん拠点病院、がんゲノム医療中核拠点病院としての大学病院の活動を利用し、がんプロ教員・履修生が積極的に関与することで、**大学院入学前の研修医や学部学生のがん医療への興味を高める**。
- ・がんプロ事業の開催情報や成果をホームページやSNSを用いて更に積極的に発信し、履修者の増員に努めるとともに、広く市民の理解を求めていく。
- ・事業運営推進委員会やテレビ会議を通じた大学間の定期的な情報交換、がんプロ全体研修会や大学合同カンファレンス・訪問研修を通じた履修生・教員の直接交流をより積極的に実施し、本プランの円滑な推進に努める。
- ・北部エリアとしての事業、個別の大学間交流、拠点間交流、海外医療機関との連携を更に推進することで、がん医療専門人材の育成につなげていく。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

九州大学

○ 英文誌

学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	Okuzono S, Ishimura M, Kanno S, Sonoda M, Kaku N, Motomura Y, Nishio H, <u>Oba U</u> , Hanada M, Fukushi JI, Urata M, Kang D, Takada H, Ohga S. Streptococcus pyogenes-purpura fulminans as an invasive form of group A streptococcal infection. <i>Ann Clin Microbiol Antimicrob</i> . 2018 Jul 9;17(1):31.
2 小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	Okuda T, Hata N, Suzuki SO, Yoshimoto K, Arimura K, Amemiya T, Akagi Y, Kuga D, <u>Oba U</u> , Koga Y, Ohga S, Iwaki T, Iihara K. Pediatric ganglioglioma with an H3 K27M mutation arising from the cervical spinal cord. <i>Neuropathology</i> . 2018 Apr 19.
3 先端医用量子線技術科学コース	Ninomiya K, Arimura H, Sasahara M, Kai Y, Hirose T, Ohga S. Feasibility of anatomical feature points for estimation of prostate locations in the Bayesian delineation frameworks for prostate cancer radiotherapy. <i>Radiological Physics and Technology</i> 2018, 11(4), 434-444. 2018
4 先端医用量子線技術科学コース	Arimura H, Soufi M, <u>Ninomiya K</u> , Kamezawa H, <u>Yamada M</u> . Potentials of radiomics for cancer diagnosis and treatment in comparison with computer-aided diagnosis (review paper). <i>Radiological Physics and Technology</i> , 11(4), 365-374. 2018
5 先端医用量子線技術科学コース	Soufi M, Arimura H, <u>Nagami N</u> . Identification of optimal mother wavelets in survival prediction of lung cancer patients using wavelet decomposition-based radiomic features. <i>Medical Physics</i> , 45(11), 5116-5128. 2018
6 先端医用量子線技術科学コース	Arimura H, Soufi M, Kamezawa H, <u>Ninomiya K</u> , <u>Yamada M</u> . Radiomics with artificial intelligence for precision medicine in radiation therapy (review paper). <i>Journal of Radiation Research</i> , 59, 2018 (E-pub ahead of print)
7 先端医用量子線技術科学コース	<u>Nagami N</u> , Arimura H, Soufi M, Ohishi M, Imaizumi T, Yamaguchi Y, <u>Ninomiya K</u> , Tokumaru S, Toyama S, Kawasaki K, Kitazato A, Takita S, Uba K, Irie H. An approach for evaluation of delineation accuracy of GTV contours with considering interobserver variability in reference contours: Impact of MAR on radiation treatment planning. <i>Medical Imaging and Information Sciences</i> , 2019 (In press)
8 先端医用量子線技術科学コース	<u>Kasai Y</u> , Fukuyama Y, Terashima H, Nakamura K, Sasaki T, Relationships between the number of ports and dose evaluation Indices in total body irradiation using TomoDirect and its comparison with TomoHelical. <i>Journal of Applied Clinical Medical Physics</i> , (In press)
9 先端医用量子線技術科学コース	<u>Kawazoe Y</u> , Morishita J, Matsumoto Y, Okumura M, Shin S, Usumoto Y, Ikeda N, A simple method for semi-automatic readjustment for positioning in post-mortem head computed tomography imaging. <i>Journal of Forensic Radiology and Imaging</i> , 2019 (Accepted)
10 がん専門細胞検査士コース 修士課程	Watanabe S, Yamaguchi S, <u>Fujii N</u> , Eguchi N, Katsuta S, Sugishima S, Iwasaka T, Kaku T. Nuclear Co-expression of p21 and p27 Induced Effective Cell-cycle Arrest in T24 Cells Treated with BCG. <i>Cytotechnology</i> , DOI 10.1007/s10616-018-0278-5. 2018
11 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	<u>Arimizu K</u> , Hirano G, Makiyama C, Matsuo M, Sasaguri T, Makiyama A. NUT carcinoma of the nasal cavity that responded to a chemotherapy regimen for Ewing's sarcoma family of tumors : a case report. <i>BMC Cancer</i> . 2018 Nov 19;18(1):1134.

○ 和文誌

学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	野田優子, 古賀友紀, 太田百絵, 宮園真美, 若杉陽子, 船越幸江, 浦部由紀, 貴船美保, 上田圭希, 大場諒子, 中島健太郎, 宗崎良太, 木下義昌, 田口智章, 大賀正一. 小児がん患者の家族に対する抗がん剤曝露の実態調査. <i>癌と化学療法</i> 45(6) 945-948. 2018年6月
2 先端医用量子線技術科学コース	有村秀孝, 三宮健太, 山田真大. 放射線治療分野におけるレディオミックスの展望. <i>医療機器学</i> , 88(4), 485-489. 2018. 8月
3 先端医用量子線技術科学コース	亀澤秀美, 有村秀孝, スーフイマーゼン, 三宮健太, 山田真大. 放射線治療におけるAIを用いたレディオミックスの可能性. <i>Rad Fun</i> , 16(12), 38-42. 2018. 11月
4 がん専門細胞検査士コース 修士課程	下代清査, 渡邊壽美子, 加来恒壽, 桑岡勲, 杉島節夫, 大屋正文. 子宮頸部扁平上皮病変におけるHPV (Human papillomavirus) 感染と細胞像の関連性. <i>J. Jpn. Soc. Clin. Cytol.</i> 2018;57(5):251~258

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国際学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	先端医用量子線技術科学コース	Hirata Y, Fujibuchi T, Shielding effect of the crystalline lens by direction by radiological protection glasses, 5th Asian & Oceanic IRPA regional congress on radiation protection (Melborn) 2018, May 21
2	先端医用量子線技術科学コース	Kawazoe Y, Morishita J, Ikeda N, Okumura M, Shin S, Matsunobu Y, Improved image observation in postmortem head CT imaging with three-dimensional positioning adjustment, The 24th Congress of the International Academy of Legal Medicine (Fukuoka, Japan) 2018, June 5-8
3	先端医用量子線技術科学コース	Kawazoe Y, Morishita J, Ikeda N, Okumura M, Shin S, Matsunobu Y, Shimizu Y, Yoon Y, Three-dimensional adjustment in positioning for post-mortem head CT images, 2018 Korean Society of Radiological Science Conference (Suwon, Korea) 2018, June 9
4	先端医用量子線技術科学コース	Sakata Y, Morishita J, Yoon Y, Kawazoe Y, Shimizu Y, Evaluation of Ultrasound Strain Elastography: Comparison of Indices by Hue and NTSC Luminance, 2018 Korean Society of Radiological Science Conference (Suwon, Korea) 2018, June 9
5	先端医用量子線技術科学コース	Kimoto S, Hirose T, Hashimoto M, Shoji A, Tsutsui Y, Himuro K, Baba S, Sasaki M, The influence of time of flight (TOF) information on scatter fraction and the effect of scatter correction on 18F-PET images, 65th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging (Philadelphia, USA) 2018, June 23-26 (24)
6	先端医用量子線技術科学コース	Kimoto S, Hashimoto M, Shoji A, Tsutsui Y, Himuro K, Baba S, Takahashi A, Sasaki M, The evaluation of the spatial resolution of 11C-, 18F- and 64Cu-PET images on a clinical PET/CT scanner using Monte Carlo Simulation and phantom examination, 65th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging (Philadelphia, USA) 2018, June 23-26 (24)
7	先端医用量子線技術科学コース	Shoji A, Morita K, Takeshita T, Hashimoto M, Kimoto S, Tsutsui Y, Himuro K, Baba S, Sasaki M, A Gaussian filter influenced the evaluation of heterogeneity on PET images, 65th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging (Philadelphia, USA) 2018, June 23-26 (24)
8	先端医用量子線技術科学コース	Shimokawa N, Akamatsu G, Kadosaki M, Shoji A, Kimoto S, Takashima A, Sasaki M, A comparison and examination of visual and quantitative evaluations in amyloid positron emission tomography, 65th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging (Philadelphia, USA) 2018, June 23-26 (24)
9	先端医用量子線技術科学コース	Shimokawa N, Akamatsu G, Kadosaki M, Shoji A, Kimoto S, Takashima A, Sasaki M, The effect of different regions of interest on the quantitative evaluation in amyloid PET images, 65th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging (Philadelphia, USA) 2018, June 23-26 (24)
10	先端医用量子線技術科学コース	Funada K, Takahashi A, Himuro K, Baba S, Sasaki M, Investigation of Collimator Broad Correction for Dopamine Transporter SPECT Imaging using Monte Carlo Simulation, 65th Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging (Philadelphia, USA) 2018, June 23-26 (24)
11	先端医用量子線技術科学コース	Matsukawa H, Sasaki T, Hirayama R, Hirose T, Fukunaga J, Assessment of the Anatomical Position of Point B and the Relationship Between Point B Dose and the Dose Delivered to Pelvic Lymph Nodes in CT-Based HDR Brachytherapy for Uterine Cervical Cancer, American Association of Physicists in Medicine (AAPM) 60th Annual Meeting (Nashville, USA) 2018, July 29-August 2
12	先端医用量子線技術科学コース	Kasai Y, Fukuyama Y, Terashima H, Sasaki T, Dose evaluation indices for total body irradiation using TomoDirect with different numbers of ports: a comparison with the TomoHelical method, 18th Asia-Oceania Congress of Medical Physics (Kuala Lumpur, Malaysia) 2018, November 11-14
13	先端医用量子線技術科学コース	Ueki T, Nohtomi A, Wakabayashi G, A Design Study of an Application of the CsI Self-activation Method to the Neutron Rem-counter Technique, 2018 IEEE NSS/MIC/RTSD (Sydney, Australia) 2018, November 10-17
14	先端医用量子線技術科学コース	Makano R, Arimura H, Haekal M, Ohga S, Automated segmentation framework of lung gross tumor volumes on 3D planning CT images using dense V-Net deep learning, IWAIT-IFMIA2019 (Singapore) 2019, January 6-9
15	先端医用量子線技術科学コース	Yamada M, Arimura H, Ninomiya K, Soufi M, Automated classification of histological subtypes of NSCLC using support vector machines with radiomic features, IWAIT-IFMIA2019 (Singapore) 2019, January 6-9
16	先端医用量子線技術科学コース	Zhuangfei M, Arimura H, Kakeda S, Korogi Y, Automated approach for estimation of sizes of unruptured intracranial aneurysms in MRA images using localized principal component analysis, IWAIT-IFMIA2019 (Singapore) 2019, January 6-9
17	先端医用量子線技術科学コース	Yamamoto T, Fujibuchi T, Estimation for basic characteristics of wireless multi-sensor active personal dosimeter-tablet system, Symposium Kyudai dan UNDIP (Semarang) 2019, March 11
18	がん研究薬剤師コース 博士課程	Matsukane R, Hayashi M, Takahashi M, Ouchi M, Aikawa H, Okada H, Masuda S, Hamada A, Novel high-sensitive drug detecting, PID method reveals intra-tumor pharmacokinetics of trastuzumab and factors affect to its remarkable heterogeneity, 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (WCP2018), 2018, Kyoto, Japan.

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	堤 央乃、井上 博之、高野 智嗣、中垣 憲明、金城 満、古森 雅志、中西 洋一、EGFR遺伝子変異陽性肺腺癌に対するEGFR-TKI治療中にB細胞リンパ腫の白血化を来した1例、第16回日本臨床腫瘍学会学術集会(神戸)、2018年7月19日～21日
2	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	堤 央乃、原田 英治、鈴木 邦裕、濱田 直樹、布村 拓也、吉本 五一、松元 幸一郎、中西 洋一、肺胞出血を契機に診断に至った特発性血小板減少性紫斑病の1例、第323回日本内科学会九州地方会(鹿児島)、2018年11月18日
3	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	大場 詩子、古賀 友紀、川口 理一郎、中島 健太郎、大賀 正一、赤木 洋二郎、秦 暢宏、吉本 幸司、飯原 弘二、孝 橋 賢一、小田 義直 中枢神経原発悪性黒色腫に対してNivolumabを使用した小児例 第500回日本小児科学会福岡地方会例会(福岡)2018年6月9日
4	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	大場 詩子 小児がん診療の実態～臨床現場で感じること～ 小児がんのこどもの教育を考える講演会(福岡) 2018年8月18日
5	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	大場 詩子1)、古賀 友紀1)、本田 裕子2)、小野 宏彰1)、中島 健太郎1)、楠原 浩一2)、大賀 正一1) 1)九州大学小児科 2)産業医科大学小児科 急性赤白血病の小児5症例 小児造血幹細胞移植セミナー九州2018 福岡 2018年9月9日
6	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	Uta-ko Oba1), Yuhki Koga1), Ichita Hasegawa1), Tamaki Ueda1), Kentaro Nakashima1), Tomomi Ide2), Hiroyuki Tsutsui2), Shouichi Ohga1) Adult-onset AML in Down syndrome: a case with RUNX1-RUNX1t1 t(8;21)(q22;q22) and a literature review. 第80回日本血液学会学術集会(大阪) 2018年10月12-14日
7	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	Uta-ko Oba1), Yuhki Koga1), Riichiro Kawaguchi1), Kentaro Nakashima1), Masataka Ishimura1), Yojiro Akagi2), Nobuhiro Hata2), Koji Yoshimoto2), Kenichi Kohashi3), Koji Iihara2), Yoshinao Oda3), Shouichi Ohga1) 中枢神経原発悪性黒色腫に対してNivolumabを使用した小児例 第60回日本小児血液・がん学会学術集会(京都) 2018年11月14-16日
8	先端医用量子線技術科学コース	Kimoto S, Hashimoto N, Shoji A, Tsutsui Y, Himuro K, Baba S, Takahashi A, Sasaki M, The evaluation of the spatial resolution of 11C-, 18F- and 64Cu-PET images using phantom examination and simulation, 第77回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜市) 2018年4月12-15日 (13日)
9	先端医用量子線技術科学コース	Shoji A, Morita K, Takashita T, Tsutsui Y, Himuro K, Baba S, Sasaki M, Influence of a Gaussian filter on the evaluation of the PET heterogeneity, 第77回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜市) 2018年4月12-15日 (13日)
10	先端医用量子線技術科学コース	Shimokawa N, Akamatsu G, Kadosaki M, Shoji A, Hashimoto N, Kimoto S, Sasaki M, Relationship between visual judgement and quantitative values in amyloid PET, 第77回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜市) 2018年4月12-15日 (15日)
11	先端医用量子線技術科学コース	Shimokawa N, Akamatsu G, Kadosaki M, Shoji A, Hashimoto N, Kimoto S, Sasaki M, Influence of regions-of-interest template on the quantitative evaluation of amyloid PET, 第77回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜市) 2018年4月12-15日 (15日)
12	先端医用量子線技術科学コース	Kawazoe Y, Morishita J, Ikeda N, Okumura M, Shin S, Matsunobu Y, Shimizu Y, Improvement of Image Comparison and Personal Identification Using Head CT Images with Three-Dimensional Positioning Adjustment, 第74回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜市) 2018年4月12-15日
13	先端医用量子線技術科学コース	Hara K, Yabuuchi H, Yongsu Y, Narita H, Yasuda Y, Harada N, Kurihara Y, Assessment of Usefulness of the Breath-hold Training Method to Improve Reproducibility of Quantitative Values by Inspiratory and Expiratory Lung Magnetic Resonance Imaging, 第74回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜市) 2018年4月12-15日
14	先端医用量子線技術科学コース	舟田 圭汰, 高橋 昭彦, 氷室 和彦, 馬場 眞吾, 佐々木 雅之, モンテカルロシミュレーションによるドパミントランスポートSPECT画像におけるコリメータ開口補正の影響の検討, 第74回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜市) 2018年4月12-15日
15	先端医用量子線技術科学コース	上野 豊生, 高橋 昭彦, 大島 良太, 氷室 和彦, 馬場 眞吾, 佐々木 雅之, Ra-223のSPECT画像におけるコリメータ最適化の検討: モンテカルロ研究, 第74回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜市) 2018年4月12-15日
16	先端医用量子線技術科学コース	Nagami N, Arimura H, Soufi M, Ohishi M, Imaizumi T, Uba K, Irie H, Quantification of feasibility of a metal artifact reduction technique for delineation of GTV in RTP for head and neck cancer, 第74回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜市) 2018年4月12-15日
17	先端医用量子線技術科学コース	Ninomiva K, Arimura H, Sasahara M, Hirose T, Ohga S, Umezu Y, Honda H, Automated Localization Approach of Prostates for Radiotherapy using Anatomical-feature-based Machine Learning and its Feasibility in Bayesian Target Contouring Framework, 第74回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜市) 2018年4月12-15日
18	先端医用量子線技術科学コース	Nakano R, Arimura H, Asamura R, Ohga S, Honda H, Tomonari Sasaki, Deep-learning-based segmentation of GTV regions of lung cancer using datasets of planning CT and PET/CT images, 第115回日本医学物理学学会学術大会(横浜市) 2018年4月12-15日
19	先端医用量子線技術科学コース	Yamada M, Arimura H, Soufi M, Development of a framework for prediction of lung cancer patients' prognoses using PCA-based radiomics features, 第115回日本医学物理学学会学術大会(横浜市) 2018年4月12-15日
20	先端医用量子線技術科学コース	Zhuangfei M, Meaningful life in Japan within six months, 第115回日本医学物理学学会学術大会(横浜市) 2018年4月12-15日
21	先端医用量子線技術科学コース	笠井 裕貴, TomoDirectを用いた全身照射における門数と評価指標に関する検討, 第7回TomoTherapyセミナー2018(東京都) 2018年6月23日
22	先端医用量子線技術科学コース	川内野友則, 藤淵俊王, 放射線治療セツトアップトレーニングでの 呼吸情報取込みの手法の検討, 第55回放射線影響懇話会(久留米市), 2018年7月21日
23	先端医用量子線技術科学コース	二宮 健太, 有村 秀孝, 笹原 基希, 廣瀬 貴章, 大賀 才路, 前立腺癌放射線治療におけるベイズ領域推定法のための解剖学的特徴点に基づいた前立腺位置推定法, 第37回日本医用画像工学会大会(つくば市) 2018年7月25日-27日
24	先端医用量子線技術科学コース	山田 真大, 有村 秀孝, マーゼン・スーフィ, 主成分分析を用いたレディオミクス特徴量による肺癌患者の予後予測法, 第37回日本医用画像工学会大会(つくば市) 2018年7月25日-27日
25	先端医用量子線技術科学コース	川瀬 優介, 杜下 淳次, 池田 典昭, 奥村 美紀, 進政 太郎, 松延 佑輝, 清水 陽一郎, Yongsu Yoon, 半自動ポジショニング補正を実施した頭部CT画像を利用する個人識別の改善, 第46回日本放射線技術学会秋季学術大会(仙台市) 2018年10月4日-6日 (5日)
26	先端医用量子線技術科学コース	坂田 弥生, 杜下 淳次, 清水 陽一郎, ユンヨンス, 超音波エラストグラフィの色彩表示に関する新しい評価方法の検討, 第46回日本放射線技術学会秋季学術大会(仙台市) 2018年10月4日-6日 (6日)

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国内学会（つづき）

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
27	先端医用量子線技術科学コース	山本昂直, 藤淵俊王, 石垣陽, 松本佳宣, 小助川典久, X線診療場に最適化したリアルタイム線量測定システムの基本性能評価, 第46回日本放射線技術学会秋季学術大会(仙台市), 2018年10月4日
28	先端医用量子線技術科学コース	中野里彩, 有村秀孝, 大賀才路, 治療計画CT画像において深層学習を用いた3種類の肉眼的腫瘍体の抽出, 日本放射線腫瘍学会第31回学術大会(京都市) 2018年10月11日-13日
29	先端医用量子線技術科学コース	長谷合修, 有村秀孝, 浅井佳央里, 吉武忠正, 大賀才路, 塩山善之, 本田浩, 佐々木智成, 類似症例に基づく肋骨線量を考慮した肺定位放射線治療自動立案法, 日本放射線腫瘍学会第31回学術大会(京都市) 2018年10月11日-13日
30	先端医用量子線技術科学コース	市野凌資, ユンヨンス, 清水陽一郎, 川添優介, 坂田弥生, 杜下淳次, 汎用モニタリングを用いた撮影補助システムの基礎的検討, 第13回九州放射線医療技術学術大会(那覇市) 2018年11月10日-11日
31	先端医用量子線技術科学コース	大浦宏二, 杜下淳次, 川添優介, 清水陽一郎, 坂田弥生, ユンヨンス, 池田典昭, 頭部X線CT画像から測定する側頭骨含気腔を用いた個人識別に関する基礎的検討, 第13回九州放射線医療技術学術大会(那覇市) 2018年11月10日-11日
32	先端医用量子線技術科学コース	尾崎誠, 杜下淳次, 清水陽一郎, 川添優介, 坂田弥生, 経時差分処理で発生するアーチファクトの低減を目的とした類似差分処理の有用性の検討, 第13回九州放射線医療技術学術大会(那覇市) 2018年11月10日-11日
33	先端医用量子線技術科学コース	鎌田啓人, 藪内英剛, 近藤雅敏, 原田伸明, 原薫, 本田浩, 超高精細CTを用いた気管支壁の定量評価: FBP法と2種の逐次近似再構成法の比較, 第13回九州放射線医療技術学術大会(那覇市) 2018年11月10-11日
34	先端医用量子線技術科学コース	中西悠佳, 藪内英剛, 原薫, 原田伸明, 神谷武志, 本田浩, 気腫合併肺線維症 Combined pulmonary fibrosis and emphysema (CPFE) の診断におけるCT定量値の有用性の検討, 第13回九州放射線医療技術学術大会(那覇市) 2018年11月10-11日
35	先端医用量子線技術科学コース	藤原光希, 藪内英剛, 小島幸, 原田伸明, 原薫, 山下泰生, 小林幸次, 本田浩, 微細構造の描出における圧縮センシングの有用性の検討, 第13回九州放射線医療技術学術大会(那覇市) 2018年11月10-11日
36	先端医用量子線技術科学コース	寶珠山桃子, 藪内英剛, 原薫, 原田伸明, 佐々木雅之, 本田浩, Short-T1 Inversion Recovery (STIR), Diffusion Weighted Imaging (DWI), FDG-PET/CTによる非小細胞肺癌患者のリンパ節転移検出能の検討, 第13回九州放射線医療技術学術大会(那覇市) 2018年11月10-11日
37	先端医用量子線技術科学コース	木本沙希, 高橋昭彦, 橋本直樹, 庄司彩乃, 下川夏実, 高島彩, 筒井悠治, 氷室和彦, 馬場眞吾, 佐々木雅之, シミュレーションとファントム実験を用いた臨床用PET画像の空間分解能の評価, 第38回日本核医学技術学会総会学術大会(宜野湾市) 2018年11月15日-17日(6日)
38	先端医用量子線技術科学コース	庄司彩乃, 守田圭伸, 橋本直樹, 竹下利貴, 木本沙希, 筒井悠治, 氷室和彦, 馬場眞吾, 佐々木雅之, ヒートマップを用いたPET不均一集積とテクスチャ特徴量の関係, 第38回日本核医学技術学会総会学術大会(宜野湾市) 2018年11月15日-17日(6日)
39	先端医用量子線技術科学コース	下川夏実, 赤松剛, 庄司彩乃, 木本沙希, 高島彩, 佐々木雅之, アミロイドPETの定量評価へ関心領域の違いが及ぼす影響, 第38回日本核医学技術学会総会学術大会(宜野湾市) 2018年11月15日-17日(6日)
40	先端医用量子線技術科学コース	高島彩, 庄司彩乃, 杠友希, 木本沙希, 下川夏実, 筒井悠治, 氷室和彦, 馬場眞吾, 佐々木雅之, テクスチャ解析を用いた脳ドパミントランスポーターSPECTIにおける集積不均一性評価, 第38回日本核医学技術学会総会学術大会(宜野湾市) 2018年11月15日-17日(6日)
41	先端医用量子線技術科学コース	高橋昭彦, 木本沙希, 氷室和彦, 馬場眞吾, 佐々木雅之, ポジトロンレンジがPET画像の病変検出能におよぼす影響について: シミュレーション研究, 第38回日本核医学技術学会総会学術大会(宜野湾市) 2018年11月15日-17日(6日)
42	先端医用量子線技術科学コース	関川祐矢, 舟田圭達, 氷室和彦, 高橋昭彦, 馬場眞吾, 佐々木雅之, モンテカルロシミュレーションを用いた肝内腫瘍に対する ¹⁷⁷ Luの分子イメージングと収集条件の検討, 第38回日本核医学技術学会総会学術大会(宜野湾市) 2018年11月15日-17日(6日)
43	先端医用量子線技術科学コース	上野豊生, 高橋昭彦, 氷室和彦, 馬場眞吾, 佐々木雅之, Ra-223のSPECT画像におけるコリメータ最適化の検討: モンテカルロ研究, 第38回日本核医学技術学会総会学術大会(宜野湾市) 2018年11月
44	先端医用量子線技術科学コース	二宮健太, 有村秀孝, 小柳遼馬, 木下史生, アラムギール ホッセン, 渡邊壽美子, 今田憲二郎, 小田義直, 前立腺癌における病理画像特徴量とグリソンスコアの関係(口頭, 20190123), 電子情報通信学会 医用画像研究会(沖縄, 1月22日~23日, 2019)
45	がん専門細胞検査士コース修士課程	前田裕亮, 渡邊壽美子, 藤井直人, 加来恒壽, 岩坂剛, 杉島節夫: BCG曝露によるT24細胞のp21・p27発現における客観的検討, 第59回日本臨床細胞学会総会春期大会(札幌) 2018年6月3日
46	がん専門細胞検査士コース修士課程	近藤守, 渡邊壽美子, 西村和徳, 加来恒壽, 岩坂剛, 杉島節夫: 栄養状態と二核細胞の細胞周期に関する検討, 第59回日本臨床細胞学会総会春期大会(札幌) 2018年6月3日
47	がん専門細胞検査士コース修士課程	森山拓人, 渡邊壽美子, 軍馬麻紀, 鷲山和幸, 加来恒壽, 杉島節夫: BCG failure症例の自然尿細胞診に出現する異型細胞の形態学的検討, 第59回日本臨床細胞学会総会春期大会(札幌) 2018年6月3日
48	がん専門細胞検査士コース修士課程	渡邊壽美子, 平井絵梨花, 藤井直人, 江口奈津希, 山口将太, 杉島節夫, 加来恒壽, 岩坂剛: 細胞周期関連タンパク発現からみたBCG膀胱内注入療法の効果判定, 第57回日本臨床細胞学会秋期大会(横浜) ワークショップ 2018年11月18日
49	がん専門細胞検査士コース修士課程	中司成: BCG曝露T24細胞におけるpRBとp21発現の関連性, 第57回日本臨床細胞学会秋期大会(横浜) 2018年11月18日
50	がん研究薬剤師コース博士課程	松金良祐, 林光博, 高橋優, 大内麻由, 岡田尚大, 増田智先, 濱田哲暢, 新規薬物イメージング法を用いた抗体医薬trastuzumabの腫瘍内薬物動態解析, 第26回クリニカルファーマシーシンポジウム, 2018年6月23日~24日, 東京
51	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	蓮田博文: 同・異時性の四重複癌の一症例 2018年7月21日 第255回 外科集談会
52	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	有水耕平: 当院における腎癌, 胃癌, 頭頸部癌に対するNivolumabの使用経験, 第16回日本臨床腫瘍学会(神戸)2018年7月20日

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ その他(受賞等)

学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 先端医用量子線技術科学コース	二宮健太, 有村秀孝, 他: 第37回日本医用画像工学会大会 奨励賞, “前立腺癌放射線治療におけるベイズ領域推定法のための解剖学的特徴点に基づいた前立腺位置推定法”, 第37回日本医用画像工学会大会(つくば市)2018年7月25日-27日
2 先端医用量子線技術科学コース	山本昂值, 学生セッション 優秀賞, 第46回日本放射線技術学会秋季学術大会
3 がん専門細胞検査士コース修士課程	中司成: 第57回日本臨床細胞学会秋期大会 優秀演題賞 (平成30年11月18日)
4 がん研究薬剤師コース博士課程	松金 良祐, 林 光博, 高橋 優, 大内 麻由, 岡田 尚大, 増田 智先, 濱田 哲暢, 新規薬物イメージング法を用いた抗体医薬trastuzumabの腫瘍内薬物動態解析, 第26回クリニカルファーマシーシンポジウム, 2018年6月23日~24日, 東京, 優秀発表賞(ポスター)

※以下は九州大学参考資料。内部評価・外部評価の対象となる実績には計上しない。(第2期がんプロコース在籍者から提出された実績)

○ 英文誌

学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 高度先端臨床腫瘍学コース	Tanaka K, Yanagihara I, Ikematsu Y, Inoue H, Uta K, Kasniwagi E, Suzuki K, Hamada N, Takeuchi A, Tatsugami K, Eto M, Ijichi K, Uga Y, Utsubo K, Yoneshima Y, Iwama E, Nakanishi Y, Okamoto I. Detection of identical T cell clones in peritumoral pleural effusion and pneumonitis lesions in a cancer patient during immune-checkpoint blockade, <i>Oncotarget</i> . 55: 30587-30593. 2018.

○ 和文誌

学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 高度先端臨床腫瘍学コース	池松 祐樹, 福山 聡, 原田 英治, 濱田 直樹, 中西 洋一, アレルギ一性気管支肺炎アスベルギルス症の治療経過中に気管支鏡検査にて気管支内アスベルギロームと診断した1例, 気管支学 40, 3, 241-245, 2018. 5月

○ 国際学会

学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 高度先端臨床腫瘍学コース	Ando N, Otsubo K, Yoneshima Y, Iwama E, Tanaka K, Ijichi K, Toyokawa G, Tagawa T, Okamoto I, Nakanishi Y, Functional analysis of MOBI in resectable lung adenocarcinoma, 23rd Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology (Taipei, Taiwan) 2018. 11. 30
2 高度先端臨床腫瘍学コース	Ikematsu Y, Tanaka K, Yanagihara T, Liu R, Okamoto I, Nakanishi Y, Immunological analysis of pleural effusion in cancer patients who received immune checkpoint inhibitors for the development of biomarkers, 23rd Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology in 2018 (Taipei), 2018年11月29日~2018年12月2日

○ 国内学会

学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 高度先端臨床腫瘍学コース	安藤伸尚, 岡本勇, 中西洋一, 肺腺癌におけるHippo経路分子MOBIの機能解析, 第22回日本がん分子標的治療学会学術集会(東京) 2018年5月17日
2 高度先端臨床腫瘍学コース	安藤伸尚, 大坪孝平, 米嶋康臣, 岩間映二, 田中謙太郎, 伊地知佳世, 豊川剛二, 田川哲三, 岡本勇, 中西洋一, 切除可能な肺腺癌におけるMOBIの機能解析, 第77回日本癌学会学術集会(大阪) 2018年9月29日
3 高度先端臨床腫瘍学コース	池松 祐樹, 田中 謙太郎, 柳原 豊史, Liu R, Renpeng, 岡本 勇, 中西 洋一, 担癌患者における免疫チエックポイント阻害薬投与後の胸水検体をを用いたフォローアップサイトメトリー解析の検討, 第23回 日本がん分子標的治療学会学術集会(東京都, 千代田区), 2018年5月16日~18日
4 高度先端臨床腫瘍学コース	池松 祐樹, 田中 謙太郎, Kumiko Isse, 藤平 智道, 竹之山 光広, Laura Saunders, Sheila Bheddah, 岡本 勇, 中西 洋一, 小細胞肺癌患者のDLL3発現に関する検討, 第16回 日本臨床腫瘍学会学術集会(兵庫県, 神戸市), 2018年7月19日~21日
5 高度先端臨床腫瘍学コース	池松 祐樹, 田中 謙太郎, Kumiko Isse, 藤平 智道, 竹之山 光広, Laura Saunders, Sheila Bheddah, 岡本 勇, 中西 洋一, 小細胞肺癌におけるDLL3の発現とその制御, 第77回 日本癌学会学術集会(大阪府, 大阪市), 2018年9月27日~29日
6 高度先端臨床腫瘍学コース	池松 祐樹, 田中 謙太郎, 柳原 豊史, Liu R, Renpeng, 岡本 勇, 中西 洋一, Immunological analysis of pleural effusion in cancer patients who received ICI for the development of biomarkers. 第47回 日本免疫学会学術集会(福岡市, 博多区), 2018年12月10日~12日

○ その他(受賞等)

学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 高度先端臨床腫瘍学コース	池松 祐樹: 23rd Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology in 2018 (Taipei), Young Investigator Awards

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	福岡大学
コーディネーター	高松 泰
事務担当者	近藤 孝憲

1. 概要

達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

九州がんセンターと共同で、がん診療に携わる医師、看護師、薬剤師を対象とした勉強会を実施した。1回目はcardio-oncologyをテーマに福岡大学で実施し（血液腫瘍セミナー9/14）、2回目は免疫療法をテーマに九州がんセンターで行った（南福岡Hematology seminar11/17）。

かかりつけ医、在宅医と連携したがん治療を推進する目的で、生活習慣病と癌セミナーを実施した（5/17, 8/23, 10/18）。**福岡市西部地区の医師会と協力**して行ったところ、3回目は参加者数が100名に達した。

院内で免疫チェックポイント阻害薬治療のマネジメントセミナー（写真）を開催した（6/11）。治療および副作用の対処を行う診療科・部門の医師、看護師、薬剤師が参加して、自施設の治療成績および副作用マネジメントについて検証した。3月にがん患者の仕事と治療の両立支援をテーマとしたセミナーを実施する予定である。



実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

福岡県がん診療連携拠点病院である**九州がんセンターと共同で勉強会を開催**することで、自施設のみで行う場合に比べて参加した医師、看護師、薬剤師の意欲を向上させることができた。また意見交換をすることで、がん診療に関する知識・技術を深めることに役立った。

病院内での多診療科・多職種の連携を構築するために、免疫チェックポイント阻害薬治療は適している。そのため毎年免疫チェックポイント阻害薬マネジメントセミナーを実施しており、多診療科の医師、多職種の医療者がそれぞれの役割を認識して診療を行うシステム作りが進んでいる。

生活習慣病と関連させてがん治療のセミナーを開催することで、多数の開業医、在宅医に参加してもらうことができた。このセミナーは、**がん診療の病診連携の糸口**になると考えられた。

2. 各事業の取り組み状況

<p>①教育コース（大学院コース、インテンシブコース） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述</p> <p>大学院コースは2名を受け入れた。 インテンシブコースとして勉強会を開催し、別表の参加者を得た。 免疫チェックポイント阻害薬マネジメントセミナー（2018/6/11）</p>
<p>②シンポジウム、セミナー、講習会等</p> <p>※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。</p> <p>今年度もがんセミナー(共催)を開催し、多くの医療従事者、地域の方々に参加いただいた。 Dana-Farber癌研究所秀島輝先生を招いてトランスレーショナルリサーチ講演会（2018/12/26）を行った。</p>
<p>③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述</p> <p>ホームページでの広報は引き続き行い、開業医、公民館等にもセミナー等の案内を配布し、情報発信に努めている。 患者の会と共同でリンパ腫医療セミナーin福岡（2018/5/26）を開催した。 九州大学、久留米大学、大分大学と共同で市民公開講座（2018/12/8）を開催した。 福岡市医師会と協力して生活習慣病と癌セミナー（2018/5/17, 8/23, 10/18）を開催した。</p>
<p>④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）</p> <p>九州がんセンターと共同で血液腫瘍セミナー（2018/9/14）、南福岡Hematology seminar（2018/11/17）を開催した。 九州がんセンターと共同で福岡がん就労両立支援セミナー（2019/3/12）を開催する予定。</p>
<p>⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。</p> <p>がん患者の仕事と治療の両立支援をテーマとした福岡がん地域連携セミナーを院内の医療者を対象に開催する予定である（2019/3/7）。</p>

3. 自己評価

<p>[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない</p>
<p>c:あと少しで目標を達成できる</p>
<p>理由・分析等</p> <p>今年度は、医学教育の分野別評価の受審や医学教育改革、入学試験改革などに医学部職員は多くの時間を割かねばならず、大学院教育およびインテンシブコースに携わる労力が不足していた。また病院では働き方改革の推進が提唱され、今年度は勤務時間外に院内で勉強会やセミナーを開催することが制限された。</p>
<p>自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等</p> <p>病院では多診療科、多職種の間で仕事の役割分担を行い、勤務時間を適正化するための働き方改革を進めている。また診療と自己研鑽との区別を明瞭化することで、ニーズに応じた院内の勉強会やセミナーを開催し、多診療科・多職種で協力して九州がんプロ事業を実施していく予定である。</p>

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名		福岡大学
○ 英文誌		
学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと	
1 ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	Izuchi D, Fukagawa S, Yotsumoto F, Shigekawa K, Hirakawa I, et al. Association of Serum HB-EGF Value and Response to Chemotherapy in Patients with Recurrent Ovarian Cancer. Anticancer Res, 38: 4347-4351, 2018	
○ 和文誌		
学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと	
1 ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	平川豊文、南 星旭、阿南春分、他、リポソーム化ドキシソルピシン長期投与後に発症した舌癌の一例、日本婦人科腫瘍学会雑誌 36:19-24, 2018	
2 ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	吉川賢一、南 星旭、平川豊文、他、子宮腺筋症から発生したと考えられる子宮体癌の一例、福岡産科婦人科学会雑誌 41:22-26, 2018	

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	久留米大学
コーディネーター	赤木 由人、原 頼子
事務担当者	坂田 要

1. 概要

達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

大学院博士課程「希少がん診療養成コース」を設置したが、今年度の受入は0名であった。しかしながら、旧がんプロコース「化学・薬物療法専門医養成コース」の学生を1名受け入れ、症例の集収、解析を進めている。

CNS大学院では、平成30年度課程の在學生は2名で、日本看護系大学協議会の高度実践看護師教育課程の38単位のシラバスに添って学習や実習ができるように整えている。本課程履修生の実習施設としては、本課程の修了生ががん看護専門看護師として勤務している病院で受け入れてもらうことができ、様々な問題を抱えた患者への対応を実践させてもらうことから、専門医療人としての知識・スキル獲得につながっている。また、修了生も後輩の育成をすることで役割開発につながっていくと考える。本課程の在學生と修了生によって「久留米ネットワーク」を運営し、年2回の事例検討会、年度末には総会とセミナーを毎年行っている。その活動の中で、がん専門医療人としての最新の知識についての意見交換を行い、専門看護師としての役割開発に対する課題や具体的な実践方法を学びあっている。また、平成30年度からCNS大学院コースインテンシブコースの科目として「がん緩和ケア地域連携教育論」を開講した。この科目は教育学の専門家の教授から学ぶ協同学習のスキルを生かし、地域で患者・家族に向けたグッドプラクティスを多職種と連携して行えることを目指している。実習では、病院だけではなく、訪問看護ステーション、地域医療連携センター等でも実践を深め、様々な療養場所で多職種と連携しながらライフステージに応じたがん医療の実践を目指している。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

平成30年度から開講したCNS大学院コースとインテンシブコースの科目である「がん緩和ケア地域連携教育論」は、地域で専門職としての役割を果たす時に必要となるリーダーシップ論やマネジメント論を本大学の教育学の専門家である教授から学ぶことができる。この科目の履修により、協同学習を学び、実践の場で自主的に周りの人をまとめる方法を身につけることができる。この能力を生かし、地域で患者・家族に向けたグッドプラクティスを多職種と連携して行える能力を磨くことを目指している。また、多機能型シミュレーターを導入し、実習前にはフィジカルアセスメントのスキルアップ、症状マネジメントを実践するための演習も行っている。

大学院博士課程においては「希少がん診療養成コース」を設置したものの、希少がんゆえに症例の検討をするまでに至らなかった。引き続き、症例集収解析に努める。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

平成30年度より、博士課程に「希少がん診療養成コース」を設置した。
修士課程CNS大学院コースへ第2期がんプロ学生2名を移行した。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

○大学院セミナーシリーズ特別講義（平成30年12月7日開催）

平成30年12月7日に国立がん研究センターの河野隆志先生を講師に「遺伝子パネル検査を用いたがんゲノム医療」という演題のもとご講演をいただいた。教職員・大学院生を中心に約20名が参加した。

○市民公開講座（平成30年12月8日開催）

平成30年12月8日に北部九州がんプロ大学（九州大学・福岡大学・大分大学・久留米大学）で市民公開講座を開催した。

○研修会（平成31年2月9日～10日開催予定）

平成31年2月9日～10日にかけて久留米大学病院本館西棟3階デイサービスセンターにおいてコミュニケーション技術研修会を開催する予定である。内容としては、全ての世代のがん患者が納得した上で安心して治療を受けることができるように、患者・医師間のより一層の良好なコミュニケーションを目指して、悪い知らせの伝え方を軸としたコミュニケーション技術を学ぶための研修を行う。

○がんプロセミナー（平成31年2月開催予定）

平成31年2月に久留米大学病院クリニカルスキル・トレーニングセンターにおいて「がんプロセミナー」を開催する予定である。内容としては、大学院生、修了生、大学職員および地域施設の医療者を対象に実際の連携を経験しているがん専門看護師と共に、事例を展開しながら参加者同士が意見交換することを通し、患者・家族の望む在宅ケアにつながるような退院支援の実践について考えることを目的としている。

○大学院セミナー（平成31年3月1日開催）

平成31年3月1日に久留米大学基礎3号館セミナー室において、小野薬品工業株式会社の吉田隆雄先生を講師にお招きし「オブジーボの創製の経緯と今後の展開」という演題のもとご講演いただく予定である。

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

医学研究科HPの更新、医学研究科Facebookでの発信を行っている。また、医学研究科（がんプロを含む）として、医学研究科の紹介や学生募集に関する情報が記載された名刺を作成し最寄駅構内（西鉄久留米駅）に置場を設置。広報活動に取り組んでいる。また、がん看護分野CNS養成課程では履修生と修了生が、久留米ネットワークを運営し、最新知識の発信や情報交換を行っている。



④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

本院はがん診療連携拠点病院であり、腫瘍センター主催の「がん教室」や市民公開講座などでの講演を通じ広く周知している。また、大学として実施している「がん教育の出前講義」でコーディネーターである赤木や他の教授が高校で講演した。そのほか、久留米大学先端がん治療センターとの共同企画研修会に講師として参加している。

⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。

佐賀大学と協同で「ライフステージに応じた包括的がん支援」についてエンドオブ・ライフケアの視点でe-learningの作成を行った。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

c:あと少しで目標を達成できる

理由・分析等

教育においては、がん看護専門看護師資格取得に向けて、本養成課程での学びを修了することが目的であるが、学習・実習において学生の準備が不足しており、当初の予想として考えているものより成果が上がらないことがある。これは、こちら側の学生に対する学習量確保が必要であることの説明や、学生の背景や経験も関連するものと考え、実習目標を到達させるために必要な能力の確保ができていないことも影響していると考え。特別研究の進捗状況を鑑みると、研究者としての知識・態度の育成ができていないことを感じている。また、希少がんに関しては、入学者の確保が非常に難しいのが現状である。広報活動を踏まえて検討していく。その他、e-ラーニング収録は、ライフステージ部分のスライド作成、希少がん部分の文献検索まで行っており、来年度以降の収録作業に移るところである。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

研究者としての知識・態度の向上をはかるための個別で具体的な研究指導方法が必要である。
本学作成予定分のe-ラーニング講義の収録を目指す。
大学院入学者の確保のための広報活動の充実。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	佐賀大学
コーディネーター	小島研介
事務担当者	諸隈裕基

1. 概要

達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

達成目標1、2：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人、およびライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材の養成については、診療の一環としてのキャンサーボード、CPC、デスカンファレンス、看護師、薬剤師との診療カンファレンスとともに、セミナーにより教育支援をおこなっている。がんプロ主催の講演会では、アドバンス・ケア・プランニングを主眼に、医師からは神戸大学医学部附属病院緩和支援診療科 特命教授 木澤義之先生、看護師からは東京女子医科大学 老年看護学教室 長江 弘子 先生に講師をお願いし、また小児領域からは、早い時期に思春期科を開設した札幌北楡病院から、小児思春期科 佐野 弘純 先生の講演をいただいた。さらに、これらの講演会ではカバーできない希少がん、ゲノム医療については、九州がんプロ西九州エリア拠点病院である長崎大学でおこなわれたがんプロ講演会（平成30年10月31日、および平成31年2月5日）を、TVシステムを通して聴講することで、補完した。

達成目標3：佐賀大学は、日本小児血液・がん学会が認定する専門医研修施設ではなく、小児血液・腫瘍診療に携わる常勤医師は2名である。また、広く固形がん診療に携わる腫瘍内科の常勤医師も2名（1名が日本臨床腫瘍学会認定のがん薬物療法専門医）である。ゲノム医療については連携病院である。このことから、達成目標3に関して、ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を発信することは容易ではないが、最先端の情報を得るため、札幌北楡病院 小児思春期科の佐野 弘純先生を招聘して、小児・AYA世代の白血病・リンパ腫治療と感染症管理のタイトルで、平成30年9月19日にがんプロセミナーを開催した。このことにより、本プランのみならず、佐賀医療圏におけるがん専門医療人の養成に寄与した。ゲノム医療に関しては、がんゲノム医療連携病院として拠点病院とおこなっているウェブ・カンファレンスへの大学院生の参加をさせることで、知識を得るように促している。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

平成30年度は、佐賀大学主催でのがんプロセミナーを2回開催した。がんプロ履修者を含め、延べ123名の参加を得た。15名の医学・看護学部生の参加も得た。統合的地域がん治療専門医育成コース履修者の教育的な効果とともに、将来、がん診療に携わる医療者となる可能性がある医・看護学部生に対しては、彼らのキャリア・パスにがん医療人という選択肢があることを伝え、視点を広げる効果を期待している。さらに、TV会議システムを用いて、長崎大学で開催された2回のがんプロ講演会（1.平成30年10月31日開催、講師：九州大学医学研究院連携病態修復内科学准教授 草場仁志先生、タイトル：九州大学病院における希少がんの診療体制、2.平成31年2月5日開催、講師：慶應義塾大学医学部腫瘍センターゲノム医療ユニット 特任教授・ユニット長 西原広史先生、タイトル：遺伝子パネル検査に基づくがんプレジジョンメディシンの現状と課題）に、統合的地域がん治療専門医育成コースを履修中の大学院生とともに、聴講、参加した。これにより、今期のがんプロ教育の主眼項目を漏れなく教育に組み込むことができた。長崎大学は九州がんプロ西九州エリアの拠点であり、今後とも連携して、がんプロ教育を推進してゆきたい。ゲノム医療に関しては、佐賀大学は、京都大学、九州大学を中核拠点病院とするがんゲノム医療連携病院であり、定期的に毎週火曜日 webカンファレンス（エキスパートパネル）を開催している。統合的地域がん治療専門医育成コースを履修中の大学院生を参加させ、生きたゲノム医療の考え方を学ばせている。特に1名は毎回参加し、積極的に中核拠点病院との議論に参加している。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述
1. 統合的地域がん医療人育成コース 2. 統合的地域がん治療専門医育成コース
②シンポジウム、セミナー、講習会等
※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。
第一回 がんプロセミナー（平成30年9月19日開催） 参加者 51名 ・講演1. アドバンス・ケア・プランニング：自分らしく生きることを支える意思表示支援としてのケア 東京女子医科大学 老年看護学教室 長江 弘子 先生 ・講演2. 小児・AYA世代の白血病・リンパ腫治療と感染症管理 札幌北榆病院 小児思春期科 佐野 弘純 先生 第二回 がんプロセミナー（平成31年1月9日開催） 参加者 72名 ・講演. がん医療におけるアドバンス・ケア・プランニング 神戸大学医学部附属病院緩和と支持治療科 特命教授 木澤義之先生
③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述
九州がんプロのホームページで、がんプロセミナーなどの情報発信をおこなうとともに、佐賀大学からは、メーリングリスト、メール、郵送などの複数の方法で、地域の医療者、医療施設、市中薬局など、ひろく広報活動をおこなった。
④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）
地域のがん診療拠点病院、小児がん拠点病院とは、通常診療においても特に連携を心がけており、がん診療に関するカンファレンスも、年に10回以上、適宜デスカンファレンスも含めて多層的にこなされている。がんプロセミナー開催時には、拠点病院を中心とするがん診療施設に、関連診療科、看護部門、事務部門など、幅広く開催の案内をおこない、がん診療に携わる医療者の自発的な参加を促している。長崎大学とは西九州エリアでのがんプロ教育の連携を意図し、TV会議システムを用いて、長崎大学で開催された「九州大学病院における希少がんの診療体制（2018年10月31日）」、「遺伝子パネル検査に基づくがんプレジジョンメディシンの現状と課題（2019年2月5日）」の2回の講演会を佐賀大学でもTV開催した。
⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。
昨年、京都府立医科大学疼痛・緩和医療学教室准教授 上野 博司先生、愛媛県立中央病院 小児医療センター長 石田也寸志先生をお迎えし、将来を見据えた地域での難治性疼痛の緩和、小児がんサバイバーの長期管理に焦点をあてた地域がん教育をおこなった。本年は、小児期からAYA、高齢者までの各ライフステージにおける治療、看護、そしてアドバンス・ケア・プランニングまで、3名の講師をお迎えして「アドバンス・ケア・プランニング：自分らしく生きることを支える意思表示支援としてのケア」、「小児・AYA世代の白血病・リンパ腫治療と感染症管理」、「がん医療におけるアドバンス・ケア・プランニング」の講演をいただくことにより、広くかつ深くがんプロ教育をおこなった。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない
b:目標を達成できている
理由・分析等
地域（西九州、佐賀県および院内）ネットワーク形成と、患者のライフステージに合わせた専門的ながんチーム診療を構築する医療人を養成するために、佐賀大学に求められている教育貢献はできているものと考えている。新ニーズに対応する九州がんプロ養成プランの開講1年目であり、2名の履修者を得た。
自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等
佐賀大学では大学院教育は医学においてのみおこなっているが、地方大学であることと相俟って、大学院進学者の母数が少ない。また、固形がんを対象とする腫瘍内科スタッフは2名と多くはなく、がんプロコースを履修する大学院生のリクルートは容易ではない背景がある。学部生、研修医の指導への丁寧な指導など、がんチーム診療を構築する地域医療人を広く養成するとともに、がんプロ講演会などを通じて、潜在的受講生への広報を進めてゆく。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

	佐賀大学
--	------

○ 英文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	統合的地域がん治療専門医育成コース	<u>Kamachi K.</u> , <u>Shindo T.</u> , <u>Miyahara M.</u> , <u>Kitaura K.</u> , <u>Akashi M.</u> , <u>Shin-I. T.</u> , <u>Suzuki R.</u> , <u>Oshima K.</u> , <u>Kimura S.</u> Epstein-Barr virus-related diffuse large B-cell lymphoma in mogamulizumab-treated adult T-cell leukemia with incomplete T-cell reconstitution. Int J Hematol. 2018 Oct 27. doi: 10.1007/s12185-018-2552-x.
2	統合的地域がん治療専門医育成コース	<u>Kubota Y.</u> , <u>Kamachi K.</u> , <u>Wakayama K.</u> , <u>Kitamura H.</u> , <u>Yoshihara M.</u> , <u>Hisatomi T.</u> , <u>Fukushima N.</u> , <u>Ichinohe T.</u> , <u>Sueoka E.</u> , <u>Kimura S.</u> Acute myeloid leukemia with t(19;21)(q13;q22) and marked eosinophilia. Ann Hematol. 98, 221-222, 2019.

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	統合的地域がん治療専門医育成コース	中島千穂、安部友範、原田陽平、佐藤明美、中村朝美、小宮一利、末岡榮三郎、木村晋也、荒金尚子、血漿遊離DNAと細胞外小胞関連DNAの関係についての探索。日本癌学会学術集会（大阪）2018年9月27日
2	統合的地域がん治療専門医育成コース	安部友範、原田陽平、中島千穂、佐藤明美、末岡榮三郎、木村晋也、荒金尚子。血中循環腫瘍DNAは腫瘍進展と関連する。日本癌学会学術集会（大阪）2018年9月27日
3	統合的地域がん治療専門医育成コース	原田陽平、柏田知美、佐藤明美、安部友範、中島千穂、末岡榮三郎、木村晋也、荒金尚子。原発不明癌で認められた新規のERBB2遺伝子変異の解析。日本癌学会学術集会（大阪）2018年9月27日

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	長崎大学
コーディネーター	医歯薬総合研究科 臨床腫瘍学分野 教授 芦澤和人
事務担当者	医歯薬総合研究科 学務課（大学院） 主査 村上陽介

1. 概要

達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

○達成目標1

- ・多様な新ニーズに対応する専門医療人を養成するため、コース内での様々な内容のe-learningの聴講や化学療法・緩和ケアを中心とした実習を行った。
- ・ゲノム医療の臨床実装に向けて、ゲノムに関する講演会を学内で1回開催した。さらに、がんプロの教員や医療スタッフが、ゲノム医療に関して先進的な取り組みを行っている施設の研修会やエキスパートパネルに参加した。

○達成目標2

- ・大学病院のがん診療センターが主催する多職種を対象とした「がん診療連携拠点病院研修会」を4回共催し、がんプロの教員や大学院生が参加した。さらに、放射線治療に関する研修会を年度内に開催予定である。
- ・大学院生は、外来化学療法室および緩和ケア外来での実習、およびカンファレンスに参加し、チーム医療、多職種連携の重要性を学んだ。
- ・ライフステージに応じたがん専門医療人の育成のために、第2期がんプロで開始した「在宅医療実習」を継続して行った。

○達成目標3

ゲノム医療の臨床実装に向けて、ゲノムに関する講演会を学内で1回開催した。さらに、がんプロの教員や大学院生、医療スタッフが、ゲノム医療に関して先進的な取り組みを行っている施設の研修会やエキスパートパネルに参加した。また、実臨床では、エキスパートパネルの結果を受けて、院内がん診療部で治療方針等の決定を行った。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

ゲノム医療に関する講演会や、大学病院がん診療センター主催の研修会、化学療法および緩和ケアに関する実習を通して、多様な新ニーズに対応するがん専門医療人の養成を行ってきた。さらに、これまでの在宅医療実習を行うことで、地域医療を理解し、ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を継続して行っている。ゲノム医療に関しては、新たに院内に「**ゲノム診療センター、がんゲノム医療部門**」を設置し、大学院生を遺伝子パネル検査症例のTV会議システムを利用したエキスパートパネルや院内がん診療部へ参加させることで、学生のキャリア教育を行った。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

- ・当大学では、第2期がんプロ学生の第3期がんプロへの移行は認められていない。
- ・今年度、本コースへ7名の学生を受入れ、がんゲノム医療やライフステージに応じたがん治療に関して、e-learningの聴講や実習を通して、専門医療人の育成が行われた。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

- ・がんゲノム医療やライフステージに応じたがん治療に関する講演会、研修会を複数回開催した。
- ・がんゲノム医療をテーマとした「長崎大学がんプロ記念講演会」では、テレビ会議システムを用いて、他大学で同時聴講を行った。



③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

- ・毎年、大学病院のがん診療センターが主催するがん関連の県民公開講座「がんについてよく知ろう」を共催し、がんプロ担当教員の講演等で、県民への情報発信を行っている。
- ・がんプロ大学院生の在宅医療実習の報告書をHPに掲載し、ライフステージに応じた地域のがん医療に貢献する大学院生の活動を情報発信している。



④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

- ・大学病院（県がん診療連携拠点病院）と連携し、大学病院がん診療センターが主催する多職種を対象とした研修会やがん関連の県民公開講座「がんについてよく知ろう」を共催した。
- ・大学院生に対して、院内での化学療法および緩和ケアに関する実習を行い、チーム医療、多職種連携の重要性を学んでもらった。
- ・院内の緩和ケアカンファレンスやカンサーボードに大学院生が積極的に参加し、さらに県がん診療連携協議会や在宅医療実習等を含めて、病病連携、病診連携を強化するように努力した。

⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。

ライフステージに応じたがん診療の充実を図るため、大学院生に対して第2期がんプロで開始した在宅医療実習を継続して行っている。また、緩和医療をより地域に普及させるために、新たに在宅緩和医療に関する講演会を開催した。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

b:目標を達成できている

理由・分析等

第2期がんプロの大学院生に加えて、今年度7名の学生を第3期がんプロ学生として受け入れ、多様な新ニーズに対応するがん専門医療人の養成を目的として、種々の研修会、講演会の開催、化学療法および緩和ケアに関する実習、在宅医療実習などを行ってきた。また、がんゲノム医療に関する講演会の開催や、新たに院内に「ゲノム診療センター、がんゲノム医療部門」を設置し、大学院生を遺伝子パネル検査症例のTV会議システムを利用したエキスパートパネルや院内カンサーボードへ積極的に参加させた。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

- ・来年度も積極的な大学院生の受入を行い、多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成していきたい。
- ・がんゲノム医療や小児・希少がん、ライフステージに応じたがん診療を推進する多職種人材養成のために、単施設での講演会やセミナーの開催ではなく、テレビ会議システムを有効活用し、他大学で同時聴講を行うことで情報共有に努める。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

長崎大学	
大学名	長崎大学
○ 英文誌	
学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 がんゲノム医療専門医師・歯科医師養成コース	Araki T, Takeshita S, Kawasaki H, Kusumoto K, Ohata K, Shigematsu K, Shigeno M. Rectal Paraganglioma. Intern Med. 58(2):195-199, 2019 Jan 15
○ 国際学会	
学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 がんゲノム医療専門医師・歯科医師養成コース	Doutsu Y, Horiike A, Yoshizawa T, Sonoda T, Kamiyama J, Saiki M, Ariyasu R, Uchibori T, Nishikawa S, Kitazono S, Yanagitani N, Ninomiya H, Ishikawa Y, Nishio M. Programmed death-ligand 1 expression after progressive disease with EGFR-TKI and the efficacy of anti-programmed death 1 antibody in non-small cell lung cancer harboring EGFR mutation, 2018 ASCO annual meeting (Chicago, USA) 2018. 06. 01-05
○ 国内学会	
学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 がんゲノム医療専門医師・歯科医師養成コース	道津洋介、行徳 宏、嶋田 緑、谷口寛和、千住博明、池田喬哉、山口博之、福田 実、迎 寛、当科におけるEGFR遺伝子変異陽性肺癌の後方視的解析, 第16回日本臨床腫瘍学会学術集会(神戸)2018年7月19-21日
2 がんゲノム医療専門医師・歯科医師養成コース	道津洋介、嶋田 緑、谷口寛和、千住博明、行徳 宏、池田喬哉、山口博之、福田 実、黒田雅志夫、福岡順也、迎 寛、肝機能障害の原因診断に難渋した十二指腸乳頭部転移を伴う肺腺癌の1例, 第81回日本呼吸器学会・日本結核病学会・日本サルコイドーシス/肉芽種性疾患患者会九州支部 秋季学術講演会(長崎)2018年10月5-6日
3 包括的がん専門医師・歯科医師養成コース	渡瀬寛典、小澤米介、岩津伸一、小松直広、中尾一彦、当院での膵・胆道癌によるGastric Outlet Obstructionに対する内視鏡的十二指腸ステント留置術の現状, 第112回日本消化器病学会九州支部例会/第106回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 (鹿児島) 2018年11月9-10日
4 包括的がん専門医師・歯科医師養成コース	武田達哉、中村太祐、田崎裕太郎、高比良飛香、江川亜希子、山崎拓也、上谷雅孝、頭蓋内孤立性線維性腫瘍1例の治療報告, 第187回日本医学放射線学会九州地方会(熊本)2018年6月23-24日
5 包括的がん専門医師・歯科医師養成コース	武田達哉、Shiro Obata, 進行直腸癌に対する新たな治療戦略、酵素標的・増感放射線療法 (KORTUC), 日本放射線腫瘍学会第31回学術大会(京都)2018年10月11-13日

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	熊本大学
コーディネーター	馬場 秀夫
事務担当者	黒江 彩夏

1. 概要

達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

【大学院コース】

今年度は3名のコース生を新たに受け入れ、また、旧コースから19名の学生が新コースへ移行し、コース生の合計は27名となった。コース生の学会参加旅費を支援することで、多くの学生が最先端のがん研究について学ぶ機会を創出できている。また、開催したセミナーにはコース生を含め、県内の医師や看護師、薬剤師など多職種の医療関係者が参加し、地域の多様な新ニーズに対応する医療人の育成に寄与できているといえる。

【インテシブコース】

小児、壮年、高齢者といった異なるライフステージにおけるがん治療に対して、抗がん剤治療の効能・効果及び副作用モニタリングができ、質の高いがん薬物療法を推進することができる薬剤師を養成するために、セミナーを複数回開催した。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

【大学院コース】

今年度コース生のうち外科専門医7名、消化器病専門医3名、消化器外科専門医2名、がん治療認定医5名（書類提出中で取得見込み）が専門医資格を取得しており、大学院修了後のがん専門医療人材として即戦力となることが期待できる。

【インテシブコース】

がん薬物療法の全般的知識の理解を目的としたセミナーを通じ、薬剤師や薬学部生を中心に、がん薬物療法の現状およびがん治療における課題を明確にし、これらの課題を克服するために存在する、がん専門薬剤師・がん薬物療法専門医制度などを紹介し、がん治療の最適化・治療効果の最大化にいかんして医師・薬剤師が貢献しているかに関して理解が深まった。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテシブコース） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

【大学院コース】

学会発表などへの旅費援助を行うことで、研究発表及び知識修得の機会を創出することができた

【インテシブコース】

複数回セミナーを開催し内容について検討を行った。また、来年度の受講生用にセミナーの回数及び講習会等について、検討を開始する。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

【大学院コース】

4回のセミナーを実施し、合計で約240人の参加があった。参加者のうち約4割が県内の医師・看護師・薬剤師など学外からの参加者となっており、コース生のみならず、地域の医療従事者へ最新の研究内容を提供できたと言える。

【インテシブコース】

6回のセミナーを実施し、合計で約140人の参加があった。セミナーでは、医師、薬剤師、がん研究者、学部・大学院生等の多職種を対象とし、講師として、鹿児島大学病院 薬剤部 寺菌 英之 先生、滋賀医科大学医学部附属病院 薬剤部 寺田 智祐 先生、熊本大学大学院生命科学研究部 呼吸器内科学分野 佐伯 祥 先生、九州大学大学院 薬学研究院 小柳 悟 先生、熊本大学大学院生命科学研究部 機能病理学 伊藤 隆明 先生、熊本大学大学院薬学教育部 非常勤講師 橋本 豊 先生お招きし、ご講演いただいた。

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）※別表「数値実績一覧」も参照して記述
【大学院コース】 セミナー等について、本学独自のがんプロ専用Webサイトを通じて広く周知をおこなった。参加者のうち約4割が県内の医療従事者であり、地域・社会へ広く情報発信ができていると言える。 【インテンシブコース】 具体的な教育内容の検討や、目標を上回るセミナー実施回数・参加人数を達成できている。
④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）
【大学院コース】 セミナーには大学関連病院から多くの医療従事者が参加し、情報を共有することができた。
⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン探択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。
【大学院コース】 なし 【インテンシブコース】 なし

3. 自己評価

【選択肢】 a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない
【大学院コース】 b:目標を達成できている 【インテンシブコース】 d:目標を達成できていない
理由・分析等
【大学院コース】 目標回数通りのセミナーを実施し、目標数を上回る参加実績を得ることができている。参加者も学外者が約4割を占め、最新の研究成果について修得する機会を学内外へ広く提供できていると言える。また、今年度は旧コース生を新コースへ移行し、新規のコース生と合わせて27名がコース生となった。セミナーの実施・学会への旅費支援などを通じて、がん専門人材を養成するための取り組みができたと言える。また、昨年度より開設したがんプロ専用のwebサイトにて、積極的な広報活動も行った。 【インテンシブコース】 昨年、受講生を集める工夫を今後計画していくことが必要と課題にしていたが、今年度は、目標人数を確保できなかった。
自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等
【大学院コース】 新規コース生の受入増加に努めたい。 【インテンシブコース】 受講生確保のために、工夫が必要となる

「新ニースに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

熊本大学	
大学名	熊本大学
○ 英文誌	
学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	Complete remission of advanced hepatocellular carcinoma following transient chemoembolization and portal vein ligation. Koga Y, Beppu T, Imai K, Kuramoto K, Miyata T, Kitano Y, Nakagawa S, Okabe H, Okabe K, Yamashita YI, Chikamoto A, Baba H. Surg Case Rep. 2018
2 研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	Predicting Poorly Differentiated Hepatocellular Carcinoma that Meets the Milan Criteria. Koga Y, Beppu T, Miyata T, Kitano Y, Tsuji A, Nakagawa S, Arima K, Kuramoto K, Okabe H, Imai K, Hayashi H, Nitta H, Yamashita YI, Chikamoto A, Ishiko T, Baba H. Anticancer Res. 2018
3 研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	Nomoto D, Yoshida N, Akiyama T, Kiyozumi Y, Eto K, Hiyoshi Y, Nagai Y, Iwatsuki M, Iwagami S, Baba Y, Miyamoto Y, Baba H. Influence of neoadjuvant chemotherapy on short-term outcomes after minimally invasive esophagectomy for esophageal cancer. Anticancer Res. 2019 39: 471-475
4 研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	Ikanobu Y, Yo-ichi Y, Katunori I, Naoki U, Masayo T, Yuki K, Kota A, Tatsunori M, Shigeki N, Hirohisa O, Hiromitsu H, Akira C, Takatoshi I and Hideo B. Clinical Significance of Preoperative Hepatocellular Carcinoma with High Lens Culinaris Agglutinin-Reactive Fraction of Alpha-Fetoprotein but Low Alpha-Fetoprotein. Anticancer Res. 2019 (in press)
5 研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	Okadome K, Baba Y, Yagi T, Kiyozumi Y, Ishimoto T, Iwatsuki M, Miyamoto Y, Yoshida N, Watanabe M, Baba H, Prognostic Nutritional Index, Tumor-infiltrating Lymphocytes, and Prognosis in Patients with Esophageal Cancer. Annals of Surgery, October 10, 2018 - Volume Publish Ahead of Print
6 研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	Daitoku N, Miyamoto Y, Tokunaga R, Sakamoto Y, Hiyoshi Y, Iwatsuki M, Baba Y, Iwagami S, Yoshida N, Baba H. Controlling Nutritional Status (CONUT) Score Is a Prognostic Marker in Metastatic Colorectal Cancer Patients Receiving First-line Chemotherapy. Anticancer Res. 2018 Aug;38(8):4883-4888.
7 研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	Nakao Y, Okabe H, Yamashita Y, et al. A case of acute perforated cholecystitis with intracystic tumor thrombus of hepatocellular carcinoma. Int Canc Conf J (2019) 8: 43. https://doi.org/10.1007/s13691-018-0352-z
8 研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	Nakao Y, Sakamoto Y, et al. Laparoscopic resection of a subclinical functioning para-aortic paraganglioma. Int SurgJ (2018)
9 研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	Akiyama T, Miyamoto Y, Nomoto D, Kiyozumi Y, Eto K, Hiyoshi Y, Iwatsuki M, Nagai Y, Iwagami S, Baba Y, Yoshida N, Baba H, Laparoscopic dissection for pelvic lymph node recurrence of thymic carcinoma: A case report. Asian Journal of Endoscopic Surgery, 3 February 2019
10 研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	Umezaki N, Hashimoto D, Nakagawa S, Kitano Y, Yamamura K, Chikamoto A, Number of acinar cells at the pancreatic stump predicts pancreatic fistula after pancreaticoduodenectomy. Surgery Today, August 2018, Volume 48, Issue 8, pp 790-795
11 研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	Umezaki N, Hashimoto D, Nakagawa S, Yamao T, Tsukamoto M, Kitano Y, Arima K, Yamamura K, Miyata T, Okabe H, Chikamoto A, Matsumura F, Baba H, Cystic gastric metastasis from pancreatic cancer. Surgical Case Reports, 10 April 2018
12 研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	UMEZAKI N, HASHIMOTO D, YAMASHITA Y, NAKAGAWA S, NAKAO Y, ITOYAMA R, YUSA T, YAMAO T, OKABE H, IMAI K, HAYASHI H, CHIKAMOTO A, BABA H, Anticancer Research, Neuroendocrine Tumor of the Hilar Bile Duct, February 2019 39 (2) 903-907
13 研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	Sakamoto Y, Hiyoshi Y, Sakata K, Toyama E, Takata N, Yoshinaka I, Harada K, Baba H, Case of cecal volvulus successfully treated with endoscopic colopexy. Asian Journal of Endoscopic Surgery, 11 January 2018
14 研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	Sakamoto Y, Iwatsuki M, Sakata K, Toyama E, Takata N, Yoshinaka I, Harada K, Baba H, Laparoscopic omental filling with intraoperative endoscopy for a perforated duodenal ulcer. Surgery Today, November 2018, Volume 48, Issue 11, pp 1031-1034
○ 和文誌	
学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	山下晃平、岩槻政晃、岩上志朗、江藤弘二郎、日吉幸晴、馬場祥史、馬場秀夫、胃腸治療におけるリスク評価と治療法選択, 外科 80 (10):1003-1007, 2018.

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国際学会		内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
	学生の所属コース名	
1	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	Yuki Koga, Masaaki Iwatsuki, Kouhei Yamashita, Yuki Kiyozumi, Hiroshi Sawayama, Yukiharu Hiyoshi, Yoshihumi Baba, Yuji Miyamoto, Naoya Yoshida, and Hideo Baba, The clinicopathological significance of FBXW7 expression in GIST, AACR Annual Meeting 2018 (Chicago), 2018. 4. 13-19
2	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	Uchihara I, Miyake K, Oda E, Koga Y, Yagi T, Kuroda D, Eto T, Kiyozumi Y, Arima K, Sawayama H, Hiyoshi Y, Iwatsuki M, Baba Y, Miyamoto Y, Yoshida N, Baba H, Ishimoto T, To identify the critical factors in extracellular vesicles derived from cancer associated fibroblasts for drug resistance of gastric cancer cells. American Association for Cancer Research 2018 (Chicago) 2018. 4. 14-18
3	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	Yamao I, Yamashita Y, Yamamura K, Umezaki N, Tsukamoto M, Kitano Y, Arima K, Miyata T, Nakagawa S, Okabe H, Imai K, Nitta H, Chikamoto A, Takatoshi I, Baba H, The association between cellular senescence of cancer associated fibroblasts and tumor progression in pancreatic cancer, AACR annual meeting 2018(Chicago) 2018. 4. 13-19
4	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	Okadome K, Baba Y, Yagi T, Kiyozumi Y, Kuroda D, Suwayama H, Hiyoshi Y, Yoshida N, Baba H, Relationship between Prognostic Nutritional Index and Peritoneal immune system dynamics in esophageal cancer, International Society for Diseases of the Esophagus in 2018 Congress (Vienna)2018.9.16-19
5	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	Umezaki N, Nakagawa S, Yamao T, Tsukamoto M, Miyata T, Okabe H, Imai K, Hayashi H, Yamashita Y, Chikamoto A, Baba H, Lysyl oxidase expression is associated with early recurrence and poor survival in hepatocellular carcinoma, AACR annual meeting 2018(Chicago) 2018. 4. 14-18
	○ 国内学会	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
	学生の所属コース名	
1	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	膵端腫, Clinicopathological significant of vascular invasion in esophagogastric junction adenocarcinoma, 第118回 日本外科学会(東京)2018年4月6日
2	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	膵端腫, Clinicopathological and Molecular Features of Mucinous Esophagogastric Junction Adenocarcinoma, 第73回 日本消化器外科学会(鹿児島)2018年7月11日
3	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	古閑悠輝, 胃癌の新たな病期分類の有用性に関する検討, 第120回日本外科学会定期学術集会
4	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	古閑悠輝, Stage III胃癌における新たな病期分類の妥当性の検討, 第73回日本消化器外科学会総会(鹿児島)2018年7月11日～13日
5	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	古閑悠輝, GISTにおけるFBXW7と腫瘍進展の相関の検討, 第27回 日本癌病態治療研究会
6	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	古閑悠輝, GISTにおいてFBXW7はC-MYCを介し腫瘍進展に関与する, 第77回 日本癌学会学術総会
7	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	野元大地, 大腸癌イレウス症例の検討, 第118回日本外科学会定期学術集会(東京)2018年4月5日
8	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	野元大地, 胃十二指腸潰瘍穿孔に対する手術方法についての検討, 第73回日本消化器外科学会総会(鹿児島)2018年7月13日
9	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	野元大地, 進行食道癌に対するステント治療の有用性の検討, 第51回日本胸部外科学会九州地方会総会(鹿児島)2018年8月23日
10	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	野元大地, 胸腔鏡下食道亜全摘術における術前禁煙期間と術後合併症の関連, 第28回九州内視鏡下外科手術研究会(福岡)2018年9月8日
11	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	野元大地, 進行食道癌に対する食道バイパス術と食道ステント挿入術の治療成績の比較検討, 第71回日本胸部外科学会定期学術集会(東京)2018年10月6日
12	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	内原智奎, Extracellular vesicles derived from cancer associated fibroblasts induce drug resistance of gastric cancer cells, 第77回日本癌学会学術総会(大阪) 2018年9月27-29日
13	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	内原智奎, 胃癌Cancer-associated fibroblasts (CAFs)を介した薬剤耐性獲得機構の解明, 第39回 癌免疫外科研究会(岐阜) 2018年5月17日、18日
14	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	内原智奎, 術前GMR1値は食道切除後の重症合併症・呼吸器合併症の予測因子である, 第72回日本食道学会学術集会(栃木) 2018年6月28日、29日
15	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	伊東山瑠美, 術前CT所見による膵体尾部切除後の膵液瘻予測, 第118回日本外科学会定期学術集会 2018年4月5日～7日
16	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	伊東山瑠美, Clinical impacts of preoperative biliary drainage on clinical course in pancreaticoduodenectomy, 第30回日本肝胆膵外科学会学術集会 2018年6月7日～9日
17	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	伊東山瑠美, PD術前の減黄が与える、術後腹腔内感染症への影響の検討, 第49回日本膵臓学会大会 2018年6月29日～30日

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国内学会（つづき）

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
18	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	伊東山瑠美, Clinical significance of Cofillin-1 expression in pancreatic cancer, 第77回日本癌学会学術総会 2018年9月27日～29日
19	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	伊東山瑠美, 膵癌におけるCofillin-1発現の臨床的意義の検討, 第26回 JDDW 2018年11月1日～4日
20	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	伊東山瑠美, 膵癌におけるPHGDH発現の臨床的意義の検討, 第29回 消化器癌発生学会 2018年11月16日～17日
21	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	山屋宣暢, 膵癌の癌関連線維芽細胞における細胞老化の意義, 第118回日本外科学会定期学術集会(東京), 2018. 4. 5-7
22	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	山屋宣暢, The clinical significance of preoperative inflammation and nutrition status patients with intrahepatic cholangiocarcinoma, 第73回日本消化器外科学会総会, 2018. 7. 11-13
23	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	山下晃平, 高齢胃癌患者におけるGNRI (Geriatric Nutrition Risk Index)の意義, 第55回日本外科代謝栄養学会(大阪), 2018年7月5日
24	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	Kohei Yamashita, Can PD-L1 expression by biopsy specimen accurately reflect its expression of the entire tumor in gastric cancer?, The 77th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association (Osaka), 2018. 9. 28
25	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	山下晃平, 胃全摘における術後短期成績及び長期予後予測因子としてのGNRIの意義, 2018 JDDW 第16回日本消化器外科学会大会 (神戸), 2018. 11. 2
26	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	山下晃平, 胃癌におけるPD-L2発現の意義, 第29回日本消化器癌発生学会 (東京), 2018. 11. 17
27	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	太徳暢哉, 切除不能大腸癌における予後予測因子としてのCONUT scoreの有用性, 第118回日本外科学会定期学術集会(東京)2018. 4. 7
28	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	太徳暢哉, CT-guided percutaneous radiofrequency ablation for lung metastases from colorectal cancer, 第64回国際外科学会日本部会総会(長崎)2018. 6. 2
29	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	太徳暢哉, 潰瘍性大腸炎に対する至適手術時期の検討, 第73回日本消化器外科学会総会(鹿児島)2018. 7. 11
30	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	太徳暢哉, Tumor expression of Activin A is associated with clinical outcomes in patients with colorectal cancer, 第77回日本癌学会学術総会(大阪)2018. 9. 29
31	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	太徳暢哉, KRAS変異を有する大腸癌では血清p53抗体が予後予測因子となりうる, Japan Digestive Disease Week 2018(神戸)2018. 11. 2
32	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	太徳暢哉, 大腸癌手術症例におけるSurgical Apgar Scoreを用いた合併症予測因子の検討, 第73回大腸肛門病学会学術集会(東京)2018. 11. 9
33	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	太徳暢哉, Tumor expression of Activin A is associated with clinical outcomes in patients with colorectal cancer, 第29回消化器癌発生学会(東京)2018. 11. 17
34	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	中屋陽佐, 肝内胆管癌根治切除症例における周術期CRP/Alb比による予後予測に関する検討, 第6回がんと代謝研究会(奄美)2018年5月10日
35	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	中屋陽佐, Failure to achieve sequential hepatectomy after preoperative portal vein embolization, 第30回日本肝胆膵外科学会(横浜)2018年6月9日
36	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	中屋陽佐, 膵癌根治切除症例における術前免疫・栄養指標の意義, 第49回日本膵臓学会(和歌山)2018年6月30日
37	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	中屋陽佐, Clinical usefulness of perioperative C-reactive protein/albumin ratio in intrahepatic cholangiocarcinoma, 第73回日本消化器外科学会総会 (鹿児島) 2018年7月11日
38	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	中屋陽佐, 腹腔鏡用手補助下Hassab手術における我々の工夫, 第25回 日本門脈圧亢進症学会総会(大阪)2018年9月20日
39	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	中屋陽佐, High expression of ARHGAP2 is associated with poor prognosis in Patients with Pancreatic ductal adenocarcinoma, 第77回日本癌学会(大阪)2018年9月29日
40	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	中屋陽佐, 肝細胞癌に対する術前門脈血栓栓術- 切除まで至らない症例の予測因子に関する検討, 第16回日本消化器外科学会大会(神戸)2018年11月2日
41	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	中屋陽佐, 膵癌におけるRhoファミリー-関連蛋白ARHGAP2の予後予測因子としての有用性, 第29回日本消化器癌発生学会(東京)2018年11月17日
42	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	岡留一雄, 食道癌におけるPD-L2発現の意義, PD-L1と比較した臨床的有用性について, 第77回 日本癌学会学術総会 (大阪) 2018年9月27日～29日
43	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	岡留一雄, 食道癌における腫瘍内リンパ球浸潤が腫瘍進展へ与える影響, 第26回 日本消化器関連学会週間 (神戸) 2018年11月1日～4日

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国内学会（つづき）

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
44	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	遊佐俊彦, 肝細胞癌における腫瘍関連好中球の予後に与える影響, 第77回日本癌学会学術総会(大阪)2018年9月27日~29日
45	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	遊佐俊彦, 肝細胞癌における腫瘍関連リンパ球の臨床的意義とCTNNB1変異との関連性, 第73回 日本消化器外科学会総会(鹿児島)2018年7月12日
46	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	秋山貴彦, 当院における単孔式腹腔鏡下垂体切除例の手術成績, 第118回日本外科学会定期学術集会(東京)2018年4月5日
47	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	秋山貴彦, 腹腔鏡下直腸切除術における縫合不全, 第31回日本内視鏡外科学術総会(福岡)2018年12月8日
48	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	梅崎直紀, Lysyl oxidase は肝細胞癌においてEMTを促進させ、早期再発を惹起する, 第118回日本外科学会定期学術集会(東京)2018年4月5日~7日
49	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	梅崎直紀, 膵癌術後再発に対する外科的治療の意義, 第73回 日本消化器外科学会総会(鹿児島)2018年7月11日~13日
50	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	梅崎直紀, 膵頭十二指腸切除後膵液瘻の発症予測因子としての膵腺房細胞数の意義, 第27回 消化器疾患病態治療研究会(高知)2018年9月14日~15日
51	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	梅崎直紀, 肝細胞癌においてLysyl oxidaseは早期肝内転移再発因子である, 第27回 日本がん転移学会学術集会(横浜)2018年7月19日~20日
52	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	梅崎直紀, リンシロキナーゼはHCC患者においてEMT(上皮間葉転換)を誘導し、早期再発および予後不良に関連する, 第77回 日本癌学会学術総会(大阪)2018年9月27日~29日
53	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	梅崎直紀, 重複癌を有する膵癌患者に対する治療戦略, 第26回 日本消化器関連学会週間(神戸)2018年11月1日~4日
54	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	坂本悠樹, 直腸癌術後局所再発に対する外科治療の有用性, 第118回日本外科学会定期学術集会(東京)2018年4月5日
55	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	坂本悠樹, Clinical Utility of Exhaled Carbon Monoxide in Assessing Preoperative Smoking Status and Risks of Postoperative Morbidity after Esophagectomy, 第64回国際外科学会日本部会総会(長崎), 2018年6月2日
56	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	坂本悠樹, 大腸癌肝転移切除症例における予後予測因子としての術前サルコペニア及び内臓脂肪評価の有用性, 第55回日本外科代謝栄養学会学術集会(大阪), 2018年7月5日
57	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	坂本悠樹, 当科における原発性小腸癌に対する手術成績の検討, 第89回大腸癌研究会(東京), 2018年7月6日
58	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	坂本悠樹, 大腸癌肝転移切除症例における予後予測因子としてのNaples prognostic scoreの有用性, 第73回日本消化器外科学会総会(鹿児島), 2018年7月12日
59	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	坂本悠樹, 大腸癌肝転移中のフソバクテリウム・ヌクレアタムと患者予後の関連, 第77回日本癌学会学術集会(大阪), 2018年9月27日~29日
60	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	坂本悠樹, 高齢者(75歳以上)大腸癌に対する手術成績の検討, 第43回日本大腸肛門病学会九州地方会(福岡), 2018年10月6日
61	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	坂本悠樹, 当科における高齢者(75歳以上)大腸癌に対する手術成績傾向スコアマッチングを用いた検討, 第16回日本消化器外科学会大会(神戸), 2018年11月3日
62	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	坂本悠樹, 超高齢者(85歳以上)大腸癌に対する手術成績の検討, 第73回日本大腸肛門病学会学術集会(東京), 2018年11月9日
63	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	坂本悠樹, 大腸癌肝転移中のフソバクテリウムヌクレアタムと予後との関連, 第29回消化器癌発生学会総会(東京), 2018年11月16日

○ その他(受賞等)

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	古閑悠輝: 第27回 日本癌病態治療研究会:奨励賞
2	研修医・大学院一体型 がん専門博士養成コース	内原智圭: 第39回癌免疫外科研究会 研究奨励賞

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	大分大学
コーディネーター	白尾 國昭
事務担当者	新家 聡

1. 概要

達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

各セミナーを通してゲノム医療に関する理解を強め来べきがんゲノム診療時代に向け、各分野で活躍できる人材を育成した。

がんプロで行っている医療についての一般市民の理解を得るため、大分県各地で県民・市民公開講座（写真参照）を行った。テーマはそれぞれ異なったが、がんゲノム医療、希少がん、ライフステージに応じたがん対策などに関する本がんプロの達成目標をかかげたものであった。

○県民・市民公開講座のテーマ（一例）

- ・ピロリ菌感染の診断と治療／胃がん・食道がんの内視鏡治療
- ・乳がんの現状と最新治療
- ・肺がんの手術の進歩／肺がんの最新の薬物治療
- ・前立腺がんって増えているの？／前立腺がんは薬で治療できるの？／前立腺がんはどうやって見つけるの？／前立腺がんは放射線治療で治るの？／前立腺がんのロボット手術ってどうするの？



実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

「ゲノム医療研究者養成コース」に参加した大学院生・博士4名が修了した。現在、本学が設置する3つのコースに合計114名が参加しており、各コースにおいて修業中である。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）※別表「数値実績一覧」も参照して記述	
ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	: 修了者4名 入学者10名 在学学生 54名
多様なニーズに貢献するがん看護専門看護師コース（修士課程）	: 在学学生2名
ライフステージに応じた医療人養成コース（インテンシブ）	: 修了者2名 在学学生58名
②シンポジウム、セミナー、講習会等	
※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。	
インテンシブ教育セミナー	: 4回 (318人)
事例検討会	: 6回 (130人予定)
県民・市民公開講座	: 5回 (384人)
大分大学・九州大学合同カンファレンス	: 1回 (41人)
③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）※別表「数値実績一覧」も参照して記述	
シンポジウム、セミナー、講演についての新しい情報を大学ホームページに適宜告知するようにした。 http://www.med.oita-u.ac.jp/index.html	
④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）	
市民公開講座、セミナーなどの講師としてお力添えいただいた。	
⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン探択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。	
小児がん、希少がん、高齢者がんに関して講義、検討会を実施しeラーニング用教材の作成も行った。	

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない
c:あと少しで目標を達成できる
理由・分析等
セミナー、講義などは行ったがその数は充分と言えず、今後さらに充実していく必要があると思われた。
自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等
セミナー講義をさらに充実させること。各コースの受講生参加者を増やすこと

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	大分大学
-----	------

○ 英文誌

学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 医療人養成コース（インテンシブ）	Sato Y, Sumimoto I, Tsushita H, Nakahara R, Matsumoto H, Itoh H. Filgrastim biosimilar for neutropenia in gynecological cancer patients receiving chemotherapy: a prospective, single-center, non-randomized, open trial. <i>Pharmazie</i> , 8, 486-488, 2018
2 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Umeda R, Takanari H, Ogata K, Matsumoto S, Kitano T, Ono K, Tokumaru O. Direct free radical scavenging effects of water-soluble HMG-CoA reductase inhibitors. <i>Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition</i> , 64(1), 20-26, 2019
3 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Kiyota K, Yoshiura KI, Houbara R, Miyahara H, Korematsu S, Ihara K. Auto-immune disorders in a child with PIK3CD variant and 22q13 deletion. <i>Eur J Med Genet</i> , 10, 631-633, 2018.
4 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Saga K, Iwashita Y, Hidano S, Aso Y, Isaka K, Kido Y, Iada K, Takayama H, Masuda T, Hirashita T, Endo Y, Ohta M, Kobayashi T, Inomata M. Secondary unconjugated bile acids induce hepatic stellate cell activation by International Journal of Molecular Sciences. 19(10) E3043, 2018
5 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Ogawa K, Kanamori Y, Watanabe T, Tomonaga K, Kutsukake M, Goto M, Ohno M, Tahara K, Hishiki T, Fujino A. Acute pancreatitis caused by a duodenal duplication cyst covering the ampulla of Vater by Journal of Pediatric Surgery Case Reports. 34, 23-26, 2018
6 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Fujishima H, Shiroshita H, Hara T, Ichimanda M, Shitomi Y, Nakajima K, Kono Y, Hiratsuka T, Akagi T, Shibata T, Ueda Y, Toujigamori M, Etoh T, Shiraishi N, Inomata M. Clinical Impact of Laparoscopic Intersphincteric Resection following Neoadjuvant Chemoradiotherapy for Locally Advanced Rectal Cancer: Case controlled study. by <i>Annals of Laparoscopic and Endoscopic Surgery</i> , in press, 2018
7 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Iada K, Ohta M, Endo Y, Nakanuma H, Takayama H, Saga K, Hirashita T, Masuda T, Iwashita Y, Inomata M. Laparoscopic sleeve gastrectomy with concomitant cholecystectomy in obese Japanese patients: Good port sharing techniques by <i>Surg Today</i> , in submission, 2018
8 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Hashimoto T, Osoegawa A, Takumi Y, Abe M, Kobayashi R, Miyawaki M, Takeuchi H, Okamoto T, Sugio K. Intratumoral heterogeneity of copy number variation in lung cancer harboring L858R via immunohistochemical heterogeneous staining. <i>Lung Cancer</i> , 124, 241-247, 2018
9 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Osoegawa A, Hashimoto T, Takumi Y, Abe M, Yamada T, Kobayashi R, Miyawaki M, Takeuchi H, Okamoto T, Sugio K. Acquired resistance to an epidermal growth factor receptor-tyrosine kinase inhibitor (EGFR-TKI) in an uncommon G719S EGFR mutation. <i>Invest New Drugs</i> , 36(6):999-1005, 2018
10 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Kamei M, Fujitomi Y, Kondo Y, Adachi T, Shibata K, Takumi Y, Abe M, Sugio K. Cancer-associated retinopathy after surgery for breast cancer: a case report and review of the literature. <i>Surg Case Rep</i> , 4(1):10, 2018
11 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Osoegawa A, Hiraishi H, Hashimoto T, Takumi Y, Abe M, Takeuchi H, Miyawaki M, Okamoto T, Sugio K. The Positive Relationship Between γ H2AX and PD-L1 Expression in Lung Squamous Cell Carcinoma. <i>In Vivo</i> , 32(1):171-177, 2018
12 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Abe M, Osoegawa A, Karashima T, Takumi Y, Kobayashi R, Hashimoto T, Miyawaki M, Takeuchi H, Okamoto T, Sugio K, Erlotinib and bevacizumab combination therapy for atatinibrefractory leptomeningeal carcinomatosis from EGFR-mutated lung cancer. <i>International Cancer Conference Journal</i> , 1-5, 2019

○ 和文誌

学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 医療人養成コース（インテンシブ）	亀井進太郎, 佐藤雄己, 炭本隆宏, 津下遥香, 田中遼大, 伊東弘樹, 糖尿病患者における配合剤に関する意識調査. 診療と新薬55, 862-867, 2019. 11月
2 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	大嶋佑介, 佐川倫子, 平塚孝宏, 衛藤剛, 猪股雅史. 多光子励起顕微鏡の進歩と医学応用: Technical advancement and biomedical application of multiphoton excitation microscopy. <i>レーザー学会誌「レーザー研究」</i> 47(2), in press, 2018
3 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	太田正之, 遠藤裕一, 嵯峨邦裕, 高山洋臣, 多田和裕, 平下禎二郎, 内田博喜, 岩下幸雄, 猪股雅史, 外科的治療の現況-腹腔鏡下手術-, 肝胆膵, 76(4), 733-737, 2018
4 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	小川雄大, 渡邊稔彦, 前田健一, 竹添豊志子, 石田美里, 高橋正貴, 大野通暢, 瀧本康史, 金森豊, 直腸閉鎖の1女児例, 小児外科学会雑誌, 54(1), 50-53, 2018
5 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	多田和裕, 太田正之, 高山洋臣, 平下禎二郎, 丸野美由希, 清末一朗, 猪股雅史, 胃・十二指腸静脈腫瘍に対してB-RTOと脾摘の併施が有用であった1例, 日本門脈圧亢進症学会雑誌, 24(2), 149-153, 2018
6 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	宮脇美千代, 安部美幸, 内匠陽平, 小副川敦, 荒金茂樹, 杉尾賢二, 急速な経過をたどり生前診断が困難であった肺癌肉腫の1例, 肺癌, 58, 1, 35-40, 2018年

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国際学会

学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 医療人養成コース（インテンシブ）	Shiraiwa K, Suzuki Y, Tanaka K, Kawano M, Iwasaki T, Tanaka R, Sato Y, Tsumura H, Itoh H, Quantification of pazopanib in plasma of patients with soft tissue tumors using ultra-performance liquid chromatography coupled to tandem mass spectrometry. The 16th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (Brisbane, Australia) 2018. 9. 16-19
2 医療人養成コース（インテンシブ）	Sumimoto T, Nakahara R, Suzuki Y, Sato Y, Ogata M, Itoh H, Sensitive and high-throughput UPLC-MS/MS method for simultaneous quantification of imatinib, N-desmethyl-imatinib, nilotinib, dasatinib, bosutinib, ponatinib and N-desmethyl-ponatinib in human plasma. The 16th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (Brisbane, Australia) 2018. 9. 16-19
3 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Hara T, Akagi T, Empuku S, Nakajima K, Iwaki K, Kai S, Etoh T, Takeuchi Y, Tahara K, Matsumoto T, Ishikawa K, Bando T, Mimori K, Shiraiishi N, Inomata M, Laparoscopic versus open surgery for locally advanced rectal cancer following neoadjuvant chemoradiotherapy with S-1: Short- and long-term outcomes of multicenter prospective phase II trials. Gastrointestinal Cancers Symposium (San Francisco) 2018. 1. 18-20
4 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Sagawa N, Kono Y, Ohno S, Iwata H, Bando H, Ohyama T, Kondo N, Nakajima K, Hiratsuka T, Inomata M, Kitano S, The preventive effect of DHL-HISZRNA, an A-LIPOIC acid derivative, for chemotherapy-induced alopecia: a single-arm phase 3 stud. MASCC/ISOO 2018 (Vienna) 2018. 6. 28-30
5 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Itai Y, Fujishima H, Etoh T, Kono Y, Akagi T, Suzuki K, Shibata T, Ueda Y, Tojigamori M, Shiraiishi N, Inomata M, Short-term outcome of serosal and muscular layers incision technique in laparoscopic surgery for gastric gastrointestinal stromal tumors. SAGES & CAGS (Seattle) 2018. 4. 11-14
6 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Nakanuma H, Iwashita Y, Uchida H, Hirashita T, Endo Y, Tada K, Saga K, Takayama H, Ohta M, and Inomata M, Initial report of laparoscopic narrow band imaging for the intraoperative diagnosis of tumor invasiveness in gallbladder carcinoma. Third Triangle Scientific Meeting of the Japan-Hungary-Poland Surgical Society (Hungary) 2018. 6. 2-5
7 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Tojigamori M, Ozawa K, Ohno Y, Inomata M, The usefulness of the anterior extraperitoneal approach for retroperitoneal tumor in pediatric surgery. PAPS 2018 (Sapporo) 2018. 5. 14-17
8 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Kira S, Abe I, Teshima Y, Takahashi N, Human epicardial adipose tissue induces rat atrial myocardial fibrosis through paracrine effects: results organo-culture experiments. ESC2018 8. 24-30, 2018, Germany
9 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Mizoguchi A, Otani M, Holl B, Sato K, Uthunomiya S, Mimata H: The effect of technical training for interdisciplinary care teams on patients with Lower Urinary Tract Symptoms (LUTS). ICS 2018 - International Continence Society 48th Annual Meeting (Philadelphia) 2018. 8. 31

○ 国内学会

学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 医療人養成コース（インテンシブ）	後藤伴美, 成本隆宏, 鈴木芳, 井彩香, 田中望洋, 佐藤雄己, 奥田健太郎, 犀川哲典, 伊東弘樹 大病院と地域病院との情報共有による病連携～緩和ケアチームが介入したがん患者をととして～, 第12回日本緩和医療学会年会（東京）2018年5月25～27日
2 医療人養成コース（インテンシブ）	成本隆宏, 中原良介, 鈴木陽介, 佐藤雄己, 緒方正男, 伊東弘樹, UPLC-MS/MS法による5種のBCR-ABLチロシンキナーゼ阻害薬の高感度同時測定法の確立と臨床応用, 第35回日本TDM学会・学術大会（福岡）2018年5月26～27日
3 医療人養成コース（インテンシブ）	衛藤大輝, 金子哲也, 田中遼大, 甲斐真也, 鈴木陽介, 佐藤雄己, 大地嘉史, 安田則久, 後藤孝治, 伊東弘樹, 集中治療部患者を対象としたポリコナゾール経管投与による薬物動態解析, 医療薬学フォーラム2018（東京）2018年6月23～24日
4 医療人養成コース（インテンシブ）	田中遼大, 鈴木陽介, 岩男元志, 橋永一彦, 佐藤雄己, 平松和史, 門田淳一, 伊東弘樹, リネゾリドによる血小板減少症と低Na血症の関連性の検討, MRSAフォーラム2018（東京）2018年7月7日
5 医療人養成コース（インテンシブ）	Motoshi Iwao, Yosuke Suzuki, Ryota Tanaka, Teruhide Koyama, Takeshi Nakata, Kohei Aoki, Akihiro Fukuda, Yuhki Sato, Naoya Fukunaga, Fuminori Sato, Hirotsuka Shibata, Hiromitsu Mimata, Hiroki Itoh, Sensitive and selective quantification of mid-regional pro-adrenomedullin in the human plasma by performing ultra-performance liquid chromatography coupled with tandem mass spectrometry. 第12回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム（北海道）, 2018年9月15～16日
6 医療人養成コース（インテンシブ）	白岩健, 小野寛之, 田中遼大, 佐藤雄己, 伊東弘樹, S-1および放射線併用療法施行中に血漿中フェニトインおよびフェノバルビタール濃度の上昇を認めた1症例, 第79回九州山口薬学大会（大分）2018年11月3～4日
7 医療人養成コース（インテンシブ）	小野優子, 衛藤大輝, 佐藤雄己, 伊東弘樹, 点眼容器への満足度および患者の点眼手技の現状に関するアンケート調査, 第79回九州山口薬学大会（大分）2018年11月3～4日
8 医療人養成コース（インテンシブ）	成本隆宏, 中原良介, 鈴木陽介, 田中遼大, 佐藤雄己, 緒方正男, 伊東弘樹, UPLC-MS/MS法によるBCR-ABLチロシンキナーゼ阻害薬および活性代謝物の高感度同時測定法の確立と臨床応用 第35回日本薬学会九州支部大会（福岡）2018年11月17～18日
9 医療人養成コース（インテンシブ）	白岩健, 鈴木陽介, 岩男元志, 田中遼大, 佐藤雄己, 岩下幸雄, 内田博喜, 多田和裕, 猪股雅史, 伊東弘樹, 大腸癌肝転移に対する肝切除後UFT/LV併用療法における5-FU・ウラシル・テガフルールの3成分同時定量法確立とその臨床応用, 第28回日本医療学会年会（兵庫）, 2018年11月23～25日
10 医療人養成コース（インテンシブ）	小野寛之, 鈴木陽介, 田中遼大, 佐藤文憲, 佐藤雄己, 三股浩光, 大野恵子, 伊東弘樹, Coproporphyrin-Iを指標とした生体腎移植後のOATP1B活性の評価 第28回日本医療学会年会（兵庫）, 2018年11月23～25日
11 医療人養成コース（インテンシブ）	佐藤雄己, 鈴木芳, 中原良介, 伊東弘樹, 術後補助化学療法を施行した卵巣がん患者における静脈血栓症の発症要因の検討 第28回日本医療学会年会（兵庫）, 2018年11月23～25日
12 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	清田 今日子, 芳原良子, 宮原弘明, 是松聖吾, 井原健二, 川崎病, 免疫性血小板減少性紫斑病, ループス腎炎を発症した22q13欠失症候群, 第12回日本小児科学会学術集会（福岡）2018年4月21日
13 ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	河野暢之, 小林 修, 岡成和夫, 清田今日子, 久我修二, 井原健二, 周期性片側性てんかん性放電を認めたコクサッキーウイルスA6による限局性脳炎の1例, 第12回日本小児科学会学術集会（福岡市）2018年4月21日

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
14	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	後藤洋徳、平野直樹、清田今日子、久我修二、塩穴真一、末延聡一、井原健二、学校検尿の蛋白尿を契機として診断された Solid-pseudopapillary neoplasmの1例、第121回日本小児科学会学術集会（福岡市）2018年4月21日
15	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	島田祐美、川野奈々江、井原健二、濱口和之、大分大学医学部附属病院 遺伝子診療室の現況報告、第105回日本小児科学会大分地方会総会（大分市）2018年7月1日
16	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	前田美和子、島田祐美、川野奈々江、井原健二、全エクソーム解析でLeucy1-tRNA合成酵素（LARS）欠損症と診断した男児例、第15回九州先天代謝異常研究会（福岡市）2018/7/28
17	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	前田美和子、川野奈々江、井原健二、アルギナーゼ欠損症の12歳女児、アルギナーゼ欠損症検討会議（福岡市）2018年11月4日
18	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	衛藤恵理子、前田知己、河野暢之、平江健二、小林修、川野奈々江、前田美和子、久我修二、井原健二、新生児期発症尿素サイクリル異常症の神経学的予後予測 GMs評価法を用いた新しい試み、第71回九州小児科学会（鹿児島市）2018年11月17日
19	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	川野奈々江、福島直喜、井原健二、大分県新生児マススクリーニングの脂肪酸代謝異常症の解析：陽性例を中心に、第121回日本小児科学会学術集会（福岡市）2018年4月20日
20	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	太田正之、遠藤裕一、高山洋臣、多田和裕、嵯峨邦裕、岩下幸雄、平下禎二郎、内田博喜、猪股雅史 腹腔鏡下スリープ状胃切除術前後の食道裂肛ヘルニアと逆流性食道炎の検討 第95回日本消化器内視鏡学会総会（東京）2018年5月10日-12日
21	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	中沼寛明、太田正之、平下禎二郎、多田和裕、丸野美由希、清末一路、猪股雅史 B-RTO後に敗血症を発生した十二指腸静脈瘤の1例 第25回日本門脈圧亢進症学会総会（大阪）2018年9月20日-21日
22	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	當寺ヶ盛学、白坂美哲、小川雄大、坂井勇介、原貴生、河野洋平、平塚孝宏、赤木智徳、鈴木浩輔、柴田智隆、上田貴威、白石憲男、猪股雅史 RALP後発症鼠経ヘルニアに對するTEP法の短期成績 第31回日本内視鏡外科学会総会（福岡）2018年12月6日-8日
23	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	佐川倫子 抗癌剤脱毛の現状と予防薬の臨床応用に向けて 第9回癌・炎症と抗酸化研究会（大分）2018年11月24日
24	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	野田美和、増田隆明、鶴田祐介、大津甫、黒田陽介、江口英利、猪股雅史、三森功士 非浸潤性乳管癌(DCIS)の個別化医療を目指した新しい分類方法の開発 第77回日本癌学会学術総会（大阪）2018年9月27日-29日
25	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Abe I, Teshima Y, Ishii Y, Miyoshi M, Kira S, Oniki I, Fukui A, Shinohara T, Yufu K, Nakagawa M, Miyamoto S, Takahashi N. Protein Expression of Hypoxia-inducible Factor-1 α and Angiopoietin-Like Protein 2 Is Associated with Inflammatory and Fibrotic State of Epicardial Adipose Tissue 第65回日本不整脈心電学会学術大会 7.11-14, 2018. 東京
26	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Kira S, Abe I, Teshima Y, Miyoshi M, Oniki I, Fukui A, Shinohara T, Yufu K, Takahashi N. Human Epicardial Adipose Tissue Induces Rat Atrial Myocardial Fibrosis through Paracrine Effects: Results of Organo-culture Experiments 第65回日本不整脈心電学会学術大会 7.11-14, 2018. 東京
27	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Abe I, Zhan Y, Nakagawa M, Ishii Y, Miyoshi M, Kira S, Oniki I, Fukui A, Shinohara T, Teshima Y, Yufu K, Takahashi N. Rikkunshito, a Traditional Japanese Medicine, Prevented Angiotensin II Induced Atrial Remodeling and Fibrillation. 第65回日本不整脈心電学会学術大会 7.11-14, 2018. 東京
28	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Abe I, Teshima Y, Ishii Y, Miyoshi M, Kira S, Oniki I, Fukui A, Shinohara T, Yufu K, Nakagawa M, Miyamoto S, Takahashi N. Histological Assessment of Epicardial Adipose Tissue in Left Atrial Appendage Sections from Patients with or without Atrial Fibrillation. 第65回日本不整脈心電学会学術大会 7.11-14, 2018. 東京
29	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Abe I, Teshima Y, Ishii Y, Miyoshi M, Kira S, Oniki I, Fukui A, Shinohara T, Yufu K, Nakagawa M, Takahashi N. Deletion of Ghrelin Exacerbates Angiotensin II-induced Atrial Remodeling and Fibrillation. 第65回日本不整脈心電学会学術大会 7.11-14, 2018. 東京
30	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	Abe I, Teshima Y, Ishii Y, Miyoshi M, Kira S, Oniki I, Fukui A, Shinohara T, Yufu K, Nakagawa M, Shimada T, Takahashi N. Cytoarchitecture of the AV Node and Right and Left Limbs in the Human Cardiac Conduction System: Observation in Human Autopsy Heart Sections. 第65回日本不整脈心電学会学術大会 7.11-14, 2018. 東京
31	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	武内 秀也、安部 美幸、内匠 陽平、橋本 崇史、小林 良司、小副川 敦、宮脇 美千代、岡本 龍郎、杉尾 賢二、乳癌患者における血小板容積指数の臨床的意義、第118回日本外科学会定期学術集会（東京都千代田区）、2018年4月5日
32	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	小副川 敦、橋本 崇史、内匠 陽平、安部 美幸、小林 良司、宮脇 美千代、武内 秀也、岡本 龍郎、杉尾 賢二、分子標的治療耐性肺腫瘍に対する再生療法、第118回日本外科学会定期学術集会（東京都千代田区）、2018年4月7日
33	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	内匠 陽平、辛島 高志、安部 美幸、橋本 崇史、小副川 敦、宮脇 美千代、武内 秀也、岡本 龍郎、杉尾 賢二、比較的急速に増大した肺過誤腫の1例、第55回九州外科学会・第55回九州小児外科学会・第54回九州内分派外科学会（福岡市）、2018年5月11日
34	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	岡本 龍郎、辛島 高志、安部 美幸、内匠 陽平、橋本 崇史、小林 良司、小副川 敦、宮脇 美千代、武内 秀也、杉尾 賢二、肺区域切除後の残存肺葉切除、第72回手術手技研究会（鳴門市）、2018年5月11日
35	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	武内 秀也、安部 美幸、内匠 陽平、小林 良司、橋本 崇史、小副川 敦、宮脇 美千代、岡本 龍郎、杉尾 賢二、乳癌患者における赤血球容積粒分布幅/血小板数の臨床的意義、第26回日本乳癌学会総会（京都市）、2018年5月16日
36	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	安部 美幸、左スリーブ下葉切除・舌区域切除術+リンパ節郭清2a-2群、第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会（千葉市）、2018年5月18日
37	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	岡本 龍郎、安部 美幸、内匠 陽平、橋本 崇史、小林 良司、小副川 敦、宮脇 美千代、武内 秀也、杉尾 賢二、肺癌手術における慢性肺疾患の術後合併症および再発への影響、第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会（千葉市）、2018年5月17日
38	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	内匠 陽平、安部 美幸、橋本 崇史、小副川 敦、宮脇 美千代、武内 秀也、岡本 龍郎、杉尾 賢二、肺過誤腫切除症例9例の検討、第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会（千葉市）、2018年5月17日
39	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	小副川 敦、内匠 陽平、橋本 崇史、安部 美幸、宮脇 美千代、岡本 龍郎、杉尾 賢二、肺癌切除標本におけるPD-L1の発現に関する検討、第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会（千葉市）、2018年5月18日

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
40	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	安部 美幸、内匠 陽平、小林 良司、橋本 崇史、小副川 敦、宮脇 美千代、武内 秀也、岡本 龍郎、杉尾 賢二、癌性胸膜炎に対するタルクによる胸膜癒着術の検討、第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会（千葉市）、2018年5月17日
41	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	宮脇 美千代、安部 美幸、内匠 陽平、橋本 崇史、小林 良司、小副川 敦、岡本 龍郎、杉尾 賢二、高度気道狭窄肺癌に対しハイブリットステント留置により救命し後治療へ繋がらされた2例、第41回日本呼吸器内視鏡学会学術集会（東京都新宿区）、2018年5月24日
42	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	内匠 陽平、小副川 敦、安部 美幸、橋本 崇史、岡本 龍郎、杉尾 賢二、軟性気管支鏡による気道異物摘出時に発症した脳空気塞栓症、第41回日本呼吸器内視鏡学会学術集会（東京都新宿区）、2018年5月24日
43	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	岡本 龍郎、辛島 高志、安部 美幸、内匠 陽平、橋本 崇史、小副川 敦、宮脇 美千代、田川 哲三、杉尾 賢二、局所進行肺癌に対する術前化学放射線療法と肺切除の現状、第71回日本胸部外科学会定期学術集会（東京都港区）、2018年10月4日
44	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	岡本 龍郎、辛島 高志、安部 美幸、内匠 陽平、橋本 崇史、平野 隆、安倍 伸幸、宮脇 美千代、武内 秀也、鈴木 正志、杉尾 賢二、降下性壊死性縦隔炎の臨床経過と治療～頸部腫瘍からの波及の詳細～、第70回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会（東京都港区）、2018年11月8日
45	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	宮脇 美千代、辛島 高志、安部 美幸、内匠 陽平、橋本 崇史、武内 秀也、岡本 龍郎、杉尾 賢二、デュモンステント挿入の検討～安全性と効果の検討～、第70回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会（東京都港区）、2018年11月9日
46	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	宮脇 美千代、辛島 高志、安部 美幸、内匠 陽平、橋本 崇史、武内 秀也、岡本 龍郎、杉尾 賢二、肺扁平上皮癌と転移性扁平上皮癌との比較、第59回日本肺癌学会学術集会（東京都新宿区）、2018年11月30日
47	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	橋本 崇史、辛島 高志、安部 美幸、内匠 陽平、橋本 崇史、内匠 陽平、宮脇 美千代、武内 秀也、岡本 龍郎、杉尾 賢二、大細胞神経内分泌癌（LCNEC）外科切除例の臨床病理学的背景と予後の検討、第59回日本肺癌学会学術集会（東京都新宿区）、2018年12月1日
48	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	内匠 陽平、辛島 高志、安部 美幸、橋本 崇史、宮脇 美千代、武内 秀也、岡本 龍郎、杉尾 賢二、不均一なconsolidationを伴う肺腺癌GG0（まだらGG0）と病理学的浸潤径との検討、第59回日本肺癌学会学術集会（東京都新宿区）、2018年11月29日
49	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	辛島 高志、安部 美幸、内匠 陽平、橋本 崇史、宮脇 美千代、武内 秀也、岡本 龍郎、杉尾 賢二、高齢者コロイド腺癌の2切除例の臨床的特徴、第59回日本肺癌学会学術集会（東京都新宿区）、2018年11月29日
50	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	漣口晶子、佐藤和子、宇都宮里美、三股浩光；施設入所中の夜間多尿のある高齢女性への排尿ケアと睡眠の関係 The relationship between urinary care and sleep for elderly women with night time polyuria. In facilities for the elderly. 第106回日本泌尿器科学会総会（京都市）2018年4月21日
51	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	漣口晶子、大谷将之、佐藤和子、三股浩光；排尿自立指導研修の効果を持続していくための要因-排尿アセスメント研修後の調査からの考察-、第31回日本老年泌尿器科学会（福井市）2018年5月11日
52	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	漣口晶子、宇都宮里美、佐藤和子、三股浩光；介護老人保健施設における排尿・排便管理と認知機能の関係、第31回日本老年泌尿器科学会（福井市）2018年5月12日
53	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	宇都宮里美、漣口晶子；介護老人保健施設入所者の排便に関する研究、第44回日本看護研究学会（熊本市）2018年8月19日
54	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	漣口晶子、大谷将之、三股浩光；下部尿路症状（LUTS）患者の排尿管理における看護職と療法士の意識、第29回日本排尿機能学会（名古屋市）2018年9月29日

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	宮崎大学
コーディネーター	細川 歩
事務担当者	串間 宏美

1. 概要

達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

今年度の宮崎大学がんセミナーでは、総論（がん薬物療法、放射線療法、がんの病理学、精神腫瘍学、緩和医療など）、各論（胃癌、大腸癌、乳癌などの代表的な腫瘍）について15回（27コマ）開催。昨年度より2回（2コマ）増加し、講義内容の充実を図った。

多様な新ニーズに対応する専門医療人の養成やライフステージに応じたがん対策を推進する多職種の人材育成を目的とし、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養士、事務など延べ463名の多職種の医療人が参加した。

【がん看護】

“がんと共に生きる患者と家族の尊厳をまもる”を活動テーマとして講演会を企画、実施した。東京大学より会田薫子先生を招聘し、「超高齢社会の医療選択にかかわる意思決定支援」という演題で、アドバンスケアプランニングやフレイルの概念を交えながら講演いただいた。多様な新ニーズに対応する専門医療人の養成、ライフステージに応じたがん対策を推進する他職種人材養成を目的とし、看護師、医師、介護福祉士、社会福祉士、事務、学生など97名の多職種の医療人等が参加した。

また、ゲノム医療に関連して、日本家族性腫瘍学会や日本がん看護学会の学術集会への参加、AMED「ゲノム医療従事者の育成プログラム開発」主催の「看護師による看護師のためのがんゲノム勉強会」への参加を通して、最新の知見を得た。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

今年度の宮崎大学がんセミナーでは、昨年度同様多職種の医療人（延べ463名）が参加したが、セミナー全体を通しての参加人数は少なかった。また少数ではあるが、医学生も参加していた。ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コースとしては、2名がセミナー全体の3分の2以上を受講し修了条件を満たしている。

【がん看護】

宮崎県は総人口に占める高齢化率は31.1%、後期高齢化率16.2%（2017年）であり、国内でも高齢化率の高い地域である。高齢者の身体的状況を踏まえた意思決定の支援のために医療と介護との連携のもと、他職種による患者中心の医療を推進し、患者の尊厳を守りながら安心して地域社会で生活することを支援する基盤づくりが求められている。今回開催した講演会は県看護協会、県介護福祉士会、県老人保健施設協会の後援のもと開催し、県内全域から多くの医療・介護職の参加を得た。アンケート結果より、本テーマに関して実臨床で悩んでいるという記載も多く、「認知症やフレイルに対しての看護師としての対応について明日から活かしていける」「意思決定支援をおこなっていく提案ができそう」など高齢者に特化した意思決定支援について理解を促進することができた。少数ではあったが大学院生や看護学生の参加もあり、自己の看護観の深化につながることを期待したい。

がんゲノム医療の推進にあたり、看護職へのがんと遺伝に関する知識・実践力の向上が急務である。昨年に引き続き学会やセミナーへ参加することによって、看護学生、大学院生やがん医療に携わる一般看護職への教育基盤の構築につなげることができた。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

第3期がんプロにおいて大学院コースの受け入れはない。

インテンシブコースのライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コースについては、2名がセミナー全体の3分の2以上を受講し修了条件を満たしている。また、インテンシブコースの受講者の中からライフステージに応じた全人的統合的がん治療専門医育成コース希望者がみられており、今後も教育コースの充実をはかる予定である。

がん看護においては、がん看護専門看護師養成機関としての認定機関が今年度末迄であったが、教育提供体制を改善しながら、認定更新手続きを行った。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

宮崎大学がんセミナー：総論(がん薬物療法、放射線療法、がんの病理学、精神腫瘍学、緩和医療など)、各論(胃癌、大腸癌、乳癌などの代表的な腫瘍)について15回(27コマ)開催。延べ463名の多職種の医療人が参加(医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養士、事務)。

講演会「超高齢社会の医療選択にかかわる意思決定支援」(講師：会田薫子氏(東京大学大学院人文社会系研究科 死生学・応用倫理センター 上廣死生学・応用倫理講座 特任教授))：宮崎県内38施設から97名が参加(看護師、介護福祉士、医師、医療ソーシャルワーカー、事務、看護学生、他)。

③地域や社会への情報発信の取り組み(ホームページ、SNS等の実績含む) ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

がん看護専門看護師養成を機に設立した「がん看護研究会」のホームページ上で、がんプロ講演会の案内および実施報告を掲載した。(九州がんプロホームページ上にも掲載いただいた。)

④大学関連病院との連携(特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して)

学生が不在であるため学生が直接大学関連病院と関わることはなかったが、附属病院で開催される緩和ケア症例検討会ならびに附属病院遺伝カウンセリング部主催の症例検討会にがんプロ担当教員が継続して参加することにより、教員のFDを図るとともに、学生受入時にこれらの検討会に参加できるよう体制を整えている。

⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。

今年度開催した講演会は、「超高齢社会の医療選択にかかわる意思決定支援」をテーマに開催した。高齢者特有のフレイルならびにCGA(Comprehensive geriatric assessment)を踏まえたアドバンスケアプランニングを推進、支援するために必要な基礎知識から国内外の最新知見、実臨床で活用できるような様々なモデルの紹介がなされた。実臨床で悩んでいるという参加者も多く、参加者のニーズに応え得る講演会となった。参加者について、看護師のみならず介護福祉士、医師、医療ソーシャルワーカー、事務、看護学生と多様な医療・福祉関連職種の方の参加を得ることができ、多職種人材養成に繋がることが期待される。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

c:あと少しで目標を達成できる

理由・分析等

宮崎大学がんセミナーに関して、セミナーを通しての参加人数が少なかったが、大学院コースの希望者がみられている。

がん看護に関しても、29、30年度と大学院コースの受入れを行っていないが、講演会で、多職種の方に参加頂いたことは、地域で直に患者と接する方々の知識・意欲の向上を図ることができ、がんプロの存在の周知の機会にも繋がった。講演会を継続して実施していくことで、大学院生の確保にもつながる。また、がん看護専門看護師養成機関としての認定期間更新手続きにあたり教育提供体制の改善も図ったことから、いつでも学生を受け入れることのできる環境を万全に整えることができた。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

宮崎大学がんセミナーに関し、セミナー全体を通しての参加人数が少なかったため、継続的な参加が増えるよう開催通知など学内、学外(他施設の医療従事者等)へ周知していく。今年度同様に最新知識や技術を取り入れ、講義内容の充実を図ると同時に大学院コース希望者が増えるように配慮する。

また、国内でも高齢化率の高い宮崎県において、がんと共に生きる高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、“老年期”というライフステージに焦点をあてた多職種人材養成が必要であり、今年度に引き続き、高齢者に焦点をあて、多職種を対象とした講演会の企画運営を行う。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	鹿児島大学
コーディネーター	上野真一
事務担当者	作田憲一

1. 概要

達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

達成目標1：先端のがん医療コース大学院生2名と包括的がん医療コース1名を確保し、ともに分子生物学的成果に基づいた個別医療の基礎ならびに臨床応用の学習を図った。また薬物療法を中心とした集学的がん医療の中でそれを実践するための学習を行った。今後、ゲノム医療実習等が予定されている。本内容に関しては、全国がんプロ協議会ゲノム医療部会（12月20日）に、九州がんプロを代表して「鹿児島大学におけるがんゲノム医療教育」として発表を行った。また九州がんプロ全体のWebカンファレンスによるがんゲノム講習会を企画した（7月24日）。また最新ゲノム医療に関する市民公開講座を開催した。

達成目標2：毎週1回の化学療法カンファレンスの中で、とくにAYA世代と高齢者に関するがん治療の面からの問題点についてミニレクチャーを開催した。とくに就労支援の取組みや妊孕性温存の考え方や他県の取組みを紹介した。さらに、毎月1回行われる病院規模のCancer Boardを開催し、その中で「妊娠継続と抗がん剤治療」や「MTX関連リンパ腫」などについて講演した。これらのカンファレンスには、若手医師、看護師、薬剤師が参加し、各職種の面からの議論も行われた。

達成目標3：国際学会（アメリカ血液学会）参加や日本がん治療学会・日本臨床腫瘍学会の講演により、やCAR-T療法に関する諸外国の情報収集を行った。これらはカンファレンスを通して教員と大学院生の情報共有を図った。

あ実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。



平成30年度九州がんプロ全体研修会に参加し（教員2名、大学院生1名）、ライフステージに応じたがん医療に関する症例検討（AYA世代と高齢者）や討論により、キャリア教育が行われた。

さらに、毎週の化学療法カンファレンスの中で、大学院生に対するさまざまな面からのキャリア教育（集学的治療、がん薬物療法の実際と問題点、緩和ケアの知識など）が行われた。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

（大学院コース）必要な単位修得とともに、2つのコースで必要なカンファレンス参加と病院実習に参加した。

（インテンシブコース）2/18～2/21 全4日間の講習会 がんゲノム講習会

- | | | | |
|-----|-----------------------|-----|----------------------|
| 1日目 | がんゲノムのための病理検体取り扱い方法とは | 2日目 | DNA抽出とLibrary作成、実技講習 |
| 3日目 | NGS取扱いと解析方法レクチャー | 4日目 | 結果の解釈とエキスパートパネル |



シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

腫瘍免疫カンファレンス

鹿児島がんゲノム学術セミナー

12月7日 第2回鹿児島がんゲノム学術セミナー（ゲノム医療に基づいたがん治療への取り組みと今後の課題

講演 「がんプレジジョンメディシンの現状と今後の展開」慶応大学医学部 ゲノム医療ユニット 林 秀幸先生

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

毎年、本講座と病院腫瘍センターとの共催で「市民公開講座」を企画・実施しています。

H30年度は、慶応義塾大学医学部 腫瘍センター西原広史先生を招いて実施し、115名が参加しました。

講演1 「がんゲノム医療；～遺伝子を調べて、自分の“がん”をよく知り、最適な治療を！～」

講演2 「がんゲノム医療；二次的所見と遺伝性腫瘍」東京大学医学部附属病院 認定遺伝カウンセラー 大瀬戸久美子先生

広告（名医のいる病院2019）



① 大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

鹿児島県ではがん診療の均てん化、向上に資する取り組みとして全地域拠点病院・県指定病院、合計23病院を集めての4部門会（がん診療企画部門・がん登録部門・がん相談連携部門・がん緩和部門）合同研修会を年2回行っています。

8月4日 講演「がん登録の概要：収集と活用の現在と展望」国立がん研究センター がん登録センター長 東尚宏先生

2月2日 講演「ストレスケア」国立病院機構別府医療センター 井上祥明先生

講演2「がんサイバーの体験談～マインドフルネスを通して」訪問介護ステーション楓 竹友優子先生

大学病院 Cancer Board(毎月第3 水曜日開催) 8/4 (153名参加) 2/2 (135名参加)

⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。

病院規模のCancer Board（1/月）を運営し、その中では、緩和ケアチームや病棟看護師にも参加を要請し、治療方針のみではなく難治性苦痛緩和に対する議論も行った。さらにライフステージ（AYA世代など）に応じたがん医療のための専門的レクチュアを設けた。

3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

b:目標を達成できている

理由・分析等

大学病院でのがんゲノム医療立ち上げと共に、大学院生への必要な教育（ゲノム医療の基礎と応用、必要な体制や人材、アノテーション・キュレーションなど）を行った。社会人に対しても、がんゲノム医療やとくに稀少がん等の講義を設けた。また、検査技師等を対象にゲノム解析のインテンシブコースを設けた。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

大学院生に対する座学や講演会企画のみではなく、ゲノム医療実習（臨床、解析、遺伝カウンセリング）を進める。ライフステージに応じたがん医療に関して、インテンシブコースを開講する。海外の先端医療に関して、さらに情報収集を促進する。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

- 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

	鹿児島大学
--	-------

○ 英文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がんゲノム医療コース	<u>Tanaka J.</u> , <u>Kita Y.</u> , <u>Mori S.</u> , <u>Baba K.</u> , <u>Tanabe K.</u> , <u>Wada M.</u> , <u>Tsuruda Y.</u> , <u>Tanoue K.</u> , <u>Yanagita S.</u> , <u>Maemura K.</u> , <u>Natsugoe S.</u> , <u>Three-stage laparoscopic surgery in a morbidly obese patient with Hinchey III diverticulitis: a case report.</u> Surg Case Rep. 2019 Feb 15;5(1):24.

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	琉球大学
コーディネーター	福島卓也
事務担当者	医学部総務課 源河 崇

1. 概要

達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

達成目標1については、本年度は看護人材の養成を中心に展開し、緩和ケアエキスパートナース養成コースを開講し、9名が受講している。さらにがん看護セミナーを開催し、43名が受講した。琉球大学はこうした活動を通して、達成目標2についての高齢者が緩和ケアを専門とする看護師の養成に努めた。e-learningを3名の医師が担当し、撮影を行った。そして本年度そのシステムが稼働し始めたことから、大学院コースに医師を勧誘しており、がん薬物療法専門医取得を目指して来年度2名が入学予定である。大学院コースでは緩和ケアの実習を組み込む予定で、関係部署との調整が終了している。達成目標1に関して、九州がんプロ全体研修会を琉球大学主催（沖縄会場）で2019年1月26、27日に実施し、25名の参加があった。さらに達成目標3に関連して、2019年2月5日に東京大学医科学研究所で開催された平成30年度全国がんプロ協議会教育合同フォーラムにコーディネーターの福島が参加し、ゲノム医療に関する講習を受けた。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

がん看護エキスパートナースを目指す看護師が、キャリア形成のため高齢者がん医療、その中で病期を考慮した意思決定とそれに併せた緩和ケアについてのスキルを身に付けた。

2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

- ・緩和ケアエキスパートナース養成コース（11月開講～2019年9月修了予定）
県内5カ所の病院から9名（臨床看護師）の受講希望があり、現在9名受講中。

②シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

- ・がん看護セミナー（平成30年11月19日（月）16:00～18:00 開催）
講演 病期（ステージ）で考えるがん患者の意思決定支援
～診断期・治療期・EOL移行期からEOL期にある事例を通して～
講師 知念 正佳氏（静岡県立静岡がんセンター・認定看護師教育課程
専任教員・がん看護専門看護師）
参加者 43名（臨床看護師，大学院生，看護学生等 県内13病院，他1大学より参加あり）



③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

特になし

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

がん診療連携拠点病院である琉球大学医学部附属病院 地域医療部 緩和ケアチームと連携し、大学院コースでの緩和ケア研修システムを整えた。

<p>⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・インテンシブコース（がん看護エキスパートナース養成コース）では、全がん罹患数の約7割を占める高齢期がん患者へのケアについての内容も含めて教授している。 ・がん治療の長期化に伴い、がんサバイバーの治療や療養に関する意思決定支援の複雑化、多様化について理解を深めるために、がん看護セミナーでは、各ステージ（病期）に応じた意思決定支援のあり方について講演いただき、多くの参加者との情報共有、ディスカッションを行った。

3. 自己評価

<p>[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない</p>
<p>c :あと少しで目標を達成できる</p>
<p>理由・分析等</p>
<p>がん看護エキスパートナース養成については、目標を達成できているが、がん薬物療法専門医を目指す大学院コース医師の入学がなかった。また全体研修会の開催準備もあり、予定していたセミナーが十分に開催できなかった。</p>
<p>自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等</p>
<p>2019年度は<u>大学院コースに2名の医師が入学の予定</u>である。またがんゲノム医療に関するセミナーを開催の予定である。</p>

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート
数値実績 一覧

■ セミナー・シンポジウム等の開催実績

・当初「工程表」に記載していなかったセミナー・シンポジウム等を開催した場合には、適宜、行を増やして記入すること。
・セミナー・シンポジウム等の名称が「工程表」作成時から変更になった場合は、最終的な名称に修正すること。

	大学名	セミナー・シンポジウム等名称 ※主催以外による実施の場合は、その旨を末尾にカッコ書きで記入。	目標（工程表から転記）			H30実績				
			開催回数	参加者数	参加者数	参加者数		参加者数	参加者数	
						※自動	(学内)※ 連携大学含			(学外)
1		九州がんプロ全体研修会	-	-	-	27	26	1	6	1
2	九州がんプロ	北信オンコロジセミナー（九州がんプロ共催）	-	-	-	87	18	69	6	5
3		医学生・研修医のための腫瘍内科セミナー（共催）	-	-	-	60	10	50	1	0
4	九州がんプロ（北部）	市民公開講座「がん医療×アートな暮らし」	-	-	-	93	20	73	4	0
5		患者さんと家族のためのセミナー	-	-	-	51	0	51	9	0
6		九州放射線治療セミナー（共催）	-	-	-	79	10	69	1	0
7		がんゲノム講習会	-	-	-	482	477	5	9	1
8	九州大学	先端医用量子線技術科学コース講演会	-	-	-	148	118	30	3	0
9		九州大学病院がんセミナー（共催）	-	-	-	195	127	68	3	0
10		九州大学・大分大学合同カンファレンス	-	-	-	41	16	25	2	0
11		東北大学・九州大学腫瘍内科同研究会（共催）	-	-	-	18	13	5	2	1
12		がんセミナー	2	60	1	0	0	0	0	0
13		がんセミナー（共催）	-	-	-	425	15	410	1	0
14		リンパ腫医療セミナーin福岡（共催）	-	-	-	76	6	70	1	0
15		血液腫瘍セミナー	-	-	-	30	20	10	1	0
16	福岡大学	南福岡Hematology seminar	-	-	-	25	5	20	1	0
17		生活習慣病と癌セミナー	-	-	-	230	20	210	1	0
18		がんプロ講演会	-	-	-	90	90	0	1	0
19		福岡がん地域医療連携セミナー2019（後援）	-	-	-	50	40	10	1	0
20		福岡がん就労両立支援セミナー（後援）	-	-	-	50	10	40	1	0

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート
数値実績 一覧

■ セミナー・シンポジウム等の開催実績

・当初「工程表」に記載していなかったセミナー・シンポジウム等を開催した場合には、適宜、行を増やして記入すること。
・セミナー・シンポジウム等の名称が「工程表」作成時から変更になった場合は、最終的な名称に修正すること。

	大学名	セミナー・シンポジウム等名称 ※主催以外による実施の場合は、その旨を末尾にカッコ書きで記入。	目標（工程表から転記）				H30実績			
			開催回数	参加者数	参加大学数	開催回数	参加者数		参加大学数	
							※自動	(学内)※ 連携大学含		(学外)
21		家族に向けての支援教育セミナー	1	25	4	0	0	0	0	0
22		連携支援セミナー	1	25	4	0	0	0	0	0
23	久留米大学	希少がんに関するセミナー・シンポジウム（化学療法・緩和医療・がん関係）	1	10	1	0	0	0	0	0
24		大学院セミナーシリーズ特別講義	-	-	-	1	20	20	0	1
25		がんプロセミナー（2月開催予定）	-	-	-	1	20	20	0	1
26		大学院セミナー（3月開催予定）	-	-	-	1	20	20	0	1
27	佐賀大学	がんプロセミナー	2	60	1	2	123	95	28	2
28	長崎大学	長崎大学がんプロ記念講演会	1	50	5	1	70	50	20	3
29		がんゲノム医療セミナー	1	50	5	0	0	0	0	0
30		長崎大学がん診療連携拠点病院研修会（共催）	-	-	-	4	348	163	185	1
31		長崎大学病院県民公開講座「がんについてよく知ろう」	-	-	-	1	311	50	261	1
32	熊本大学	消化器がんに関するセミナー	4	160	1	4	239	149	90	4
33		がん薬物療法に関するセミナー	2	80	1	6	140	140	0	4
34		教育セミナー「がん医療のいまを知る！in佐伯」（主催）	-	-	-	3	218	25	193	1
35		教育セミナー「高齢者の意思決定能力をどのようにアセスメントするか？」（主催）	-	-	-	1	100	6	94	1
36		事例検討会（主催）	-	-	-	6	130	0	130	1
37	大分大学	市民公開講座「胃の病気を学ぼう！」（共催）	-	-	-	1	110	0	110	1
38		市民公開講座「がんをよく知ろう！一肺がんと乳がんの最新治療」（主催）	-	-	-	1	22	0	22	1
39		～前立腺がんについて学ぼう～市民公開講座in大分（共催）	-	-	-	1	150	0	150	1
40		第3回大分県腫瘍・血液内科懇談会（共催）	-	-	-	1	67	65	2	1

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート
数値実績 一覧

■ セミナー・シンポジウム等の開催実績

・当初「工程表」に記載していなかったセミナー・シンポジウム等を開催した場合には、適宜、行を増やして記入すること。
・セミナー・シンポジウム等の名称が「工程表」作成時から変更になった場合は、最終的な名称に修正すること。

大学名	セミナー・シンポジウム等名称	目標（工程表から転記）				H30実績				
		開催回数	参加者数	参加大学数	開催回数	※自動	参加者数		参加大学数	
							(学内)※ 連携大学含	(学外)		
41 大分大学 (つづき)	第9回県民公開講座「がん患者さんと家族の集い」 (共催)	-	-	-	1	35	32	3	1	0
42 宮崎大学	がんセミナー	-	-	-	15	463	380	83	1	0
43	がんプロ講演会「超高齢社会の医療選択にかかわる意思決定支援」	-	-	-	1	97	19	78	1	0
44 鹿児島大学	がん薬物療法セミナー・合同研修会	4	400	1	0	0	0	0	0	0
45 琉球大学	セミナー「島嶼沖繩に求められるがん治療と看護(仮)」	3	30	1		0	0	0	0	0
46	がん看護セミナー	-	-	-	1	43	7	36	1	0
合計 (自動計算)		22	950	25	96	4,983	2,282	2,701	83	9

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート
数値実績 一覧

- コース履修者・修了者の満足度調査（アンケート等）
- 指導技術向上等のためのFD
- ホームページ更新／SNS投稿回数

大学名	コース履修者・修了者の満足度調査（アンケート等）		指導技術向上等のためのFD		ホームページ更新／SNS投稿回数	
	実施数	実施人数	実施回数	参加人数	ホームページ更新回数	SNS投稿回数
1 九州がんプロ	1	88	1	27	82	169
2 九州大学	0	0	65	283	21	0
3 福岡大学	0	0	0	0	11	0
4 久留米大学	0	0	1	8	2	1
5 佐賀大学	0	0	0	0	0	0
6 長崎大学	1	7	0	0	8	0
7 熊本大学	0	0	0	0	9	0
8 大分大学	2	115	0	0	0	0
9 宮崎大学	0	0	0	0	2	0
10 鹿児島大学	0	0	0	0	0	0
11 琉球大学	1	1	0	0	0	0
合計（自動計算）	5	211	67	318	135	170

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート
数値実績 一覧

■ 教育プログラム・コース（インテンシブコース以外）の受入実績

・「受入目標」欄は修正不可。

・「養成分野」、「教育プログラム・コース名称」に修正が出る場合は、事前に九州がんプロ事務局あてご相談ください（文部科学省への手続きが必要な場合があります）。

No.	大学名	養成分野	教育プログラム・コース名称	対象職種	H30		
					受入目標	受入実績	
1	九州大学	ゲノム	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	医師	7	9	
2		希少がん・小児がん	希少がん・放射線治療学コース	医師	1	1	
3		希少がん・小児がん	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	医師	2	1	
4		ライフステージ	先端医用量子線技術科学コース	医学物理士	8	13	
5		希少がん・小児がん	がん専門細胞検査士コース修士課程	その他（細胞検査士）	2	1	
6		希少がん・小児がん	がん研究薬剤師コース博士課程	薬剤師	2	0	
7	福岡大学	ライフステージ	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	医師	2	2	
8	久留米大学	希少がん・小児がん	希少がん診療養成コース	医師	1	0	
9		ライフステージ	専門職養成コース がん看護分野 CNS養成	看護師	2	2	
10		ライフステージ	統合的地域がん治療専門医育成コース	医師	2	2	
11	佐賀大学	ライフステージ	統合的地域がん医療人育成コース	医師	1	0	
12	長崎大学	ゲノム	ゲノム医療人材養成コース	医師	2	2	
13		ライフステージ	包括的がん専門医療人養成コース	歯科医師	1	0	
14		ライフステージ	がん看護専門看護師養成コース	薬剤師	1	0	
15		熊本大学	ゲノム	がん看護専門看護師養成コース	医師	3	5
16		大分大学	ゲノム	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース（博士課程）	医師	5	10
17			ライフステージ	多様なニーズに貢献するがん看護専門看護師コース（修士課程）	看護師	2	0
18	宮崎大学	ライフステージ	ライフステージに応じた全人的統合的がん治療専門医育成コース	医師	1	0	
19		ライフステージ	がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース	看護師	2	0	
20		ゲノム	先端的がん医療コース	医師	2	1	
21	鹿児島大学	ライフステージ	包括的地域がん医療コース	医師	2	2	
22		ライフステージ	放射線看護専門コース	看護師	1	0	
23	琉球大学	ライフステージ	ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成・がん看護専門看護師養成コース	看護師	1	1	
24		希少がん・小児がん	希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の養成・がん薬物療法専門医コース	医師	2	0	
					医師 小計（自動計算）	43	57
					歯科医師 小計（自動計算）	2	0
					薬剤師 小計（自動計算）	4	0
					看護師 小計（自動計算）	9	3
					その他 小計（自動計算）	10	14
					合計（自動計算）	68	74
						23	

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート
数値実績 一覧

■ 教育プログラム・コース（インテンシブコース）の受入実績

・「受入目標」欄は修正不可。
・「養成分野」、「教育プログラム・コース名称」に修正が出る場合は、事前に九州がんプロ事務局あてご相談ください（文部科学省への手続きが必要な場合があります）。

大学名	養成分野	教育プログラム・コース名称	対象職種	H30		
				受入目標	受入実績	
1 福岡大学	ライフステージ	多職種連携がん専門医療人育成コース	医師 看護師 薬剤師 その他（理学療法士等）	5 20 10 5	67 31 16 1	
2 久留米大学	ライフステージ	大学院医学研究科修士課程「科目等履修生制度」	その他（地域医療に携わる医療従事者全般）	2	0	
3 熊本大学	ライフステージ	ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース	薬剤師	2	0	
4 大分大学	ライフステージ	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース	その他（医療従事者全般）	20	0	
5 宮崎大学	ライフステージ	ライフステージに応じた地域がん総合治療医療育成コース	医師	2	3	
6	希少がん・小児がん	成人T細胞白血病専門医療人養成コース	医師	2	0	
7	ライフステージ	それぞれのライフステージに即したがん患者ケアプログラム	その他（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、医療ソーシャルワーカー等）	5	0	
8 鹿児島大学	希少がん・小児がん	希少がんおよび肉腫の集学的治療プログラム	その他（医師、歯科医師、薬剤師、看護師等）	3	7	
9	その他	がん専門薬剤師養成コース	薬剤師	8	3	
10 琉球大学	ライフステージ	ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成・緩和ケアエキスパートナース養成コース	看護師	5	9	
				医師 小計（自動計算）	9	70
				歯科医師 小計（自動計算）	0	0
				薬剤師 小計（自動計算）	20	19
				看護師 小計（自動計算）	25	40
				その他 小計（自動計算）	35	8
				合計（自動計算）	89	137
						119

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート
数値実績 一覧

■ 受験・合格・資格取得者数

	コースを開設している 大学・研究科・専攻名	コース名	養成する専門分野	取得が見込まれる各学会等認定資格のうち 受験や合格実績がある資格名	受験・合格・資格取得者数					
					受験者	(内数)旧が んプロからの 移行者	合格者	(内数)旧が んプロからの 移行者	資格取得者	(内数)旧が んプロからの 移行者
計					32	22	26	14	12	9
1				小児科専門医	1	1	1	0	0	0
2	九州大学・大学院医学系学府・医学専攻	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	小児血液がん	日本血液学会血液専門医	1	1	1	0	0	0
3				小児血液がん専門医	1	1	1	0	0	0
4				日本がん治療認定医機構がん治療認定医	1	1	1	0	0	0
5	九州大学・医学系学府・保健学専攻	先端医用量子線技術科学コース	医学物理	医学物理士	7	0	3	0	0	0
6	九州大学・大学院医学系学府・医学専攻	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	臨床腫瘍学	外科専門医	1	1	1	0	0	0
7				内科認定医	1	1	1	0	0	0
8				外科学会専門医（日本外科学会）	7	4	7	4	7	4
9	熊本大学・大学院医学教育部	研修医・大学院一体型がん専門博士養成 コース	がん外科治療	消化器外科専門医（日本消化器外科学会）	3	3	2	2	2	2
10				消化器病専門医（日本消化器病学会）	3	3	3	3	3	3
11				がん治療認定医（日本がん治療認定医機構）	6	6	5	5	5	書類提出中

文部科学省『多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン』
採択事業 新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン

平成30年度 内部評価報告書

発行 平成31（2019）年3月
編集・発行 新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン 事業運営推進協議会
事務局：九州がんプロ事務局（九州大学医系学部等事務部）
ijsganpro@jimu.kyushu-u.ac.jp
<http://www.k-ganpro.com/>